

男女共同参画に関する意識調査 結果報告書

目次

1.調査の概要	1
2.調査結果	2
回答者の属性.....	2
問 1：性別（SA）	2
問 2：年齢（SA）	2
問 3：居住地域（SA）	2
問 4：職業（SA）	3
問 5：家族構成（SA）	3
ことばの認知度	4
問 6：男女共同参画にかかわる言葉の認知（SA）	4
男女平等について.....	19
問 7：男女の地位は平等になっていると思うか（SA）	19
問 8：男女が平等になるために、優先すべきだと思うこと（MA）	22
問 9：男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと（MA）	25
問 10：農林業・自営業の従事者として、男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと （SA）	28
家庭生活について.....	29
問 11：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うか（SA）	29
問 11-1：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成、どちらかといえば賛成の理 由（MA）	32
問 11-2：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対、どちらかといえば反対の理 由（MA）	33
問 12：家庭において担当している人（SA）	34
問 13：男性が家事・育児・介護に積極的に参加していくために必要だと思うこと（MA）	39
問 14：地域で暮らす子供たちが、社会の一員としてどのように育ってほしいと思うか（MA） ..	42
ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	43
問 15(1)(2)：生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について（SA）	43
社会参画について.....	47

問 16：地域の自治会や PTA 等の代表に選ばれる機会があったらどうするか（SA）	47
問 16-1：どちらかといえば引き受けない、引き受けない理由（SA）	48
女性の活躍について	49
問 17：女性が地域の自治会や P T A 等の代表、議員や審議会委員など、方針決定の場に参画することについて、どう思うか（SA）	49
問 17-1（a）：女性が方針決定の場に参画することに賛成する理由（MA）	50
問 17-1（b）：女性が方針決定の場に参画することに反対する理由（MA）	51
問 18：女性の参画が、行政や企業、地域の自治会や P T A 等の代表、議員や審議会委員など、方針決定の場に増えていくために必要だと思うこと（MA）	52
旧姓の使用について	54
問 19：結婚して戸籍上の名字が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思うか（SA）	54
問 19-1：旧姓を通称として使用するとき、どのようなものに旧姓が使用できると良いと思うか（MA）	55
女性に対する暴力等について	56
問 20：最も必要だと考える暴力への対策（SA）	56
問 21：国・県及び甲州市が設置している女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、知っているもの（MA）	57
問 22：女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うこと（MA）	58
男女共同参画に関する取り組みについて	59
問 23：男女共同参画社会の実現のために重点的に取り組めばよいと思うこと（MA）	59
3.調査票	62

1.調査の概要

① 調査の目的

「第2次甲州フルーティー夢プラン」が令和3年度に最終年度となることから、これまでの推進の成果と、本市における男女共同参画の現状について、市民の意向を把握し、令和3年度に策定を予定している「第3次甲州フルーティー夢プラン」の基礎資料とする。

② 調査方法

仕様項目	仕様
調査対象者	甲州市民より1,300人を無作為に抽出（20歳以上）
調査方法	調査票の配付・回収（郵送）
調査期間	令和3年4月6日～令和3年6月18日

③ 回答結果

配付数 計……1,300 票

回収数 計……528 票（回収率 40.6%）

④ 報告書中の記号、調査結果の数値について

（S A） 単一回答（Single Answer）の略。選択回答は1項目のみ。

（M A） 複数回答（Multi Answer）の略。

（一部回答を限定しているものもある。）

複数回答における回答率は100%を超える場合がある。

n 回答者数（number）をあらわす。「n = 100」は、回答者数が100人ということ。

各回答項目の構成比は、小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の合計が100%にならない場合もある。

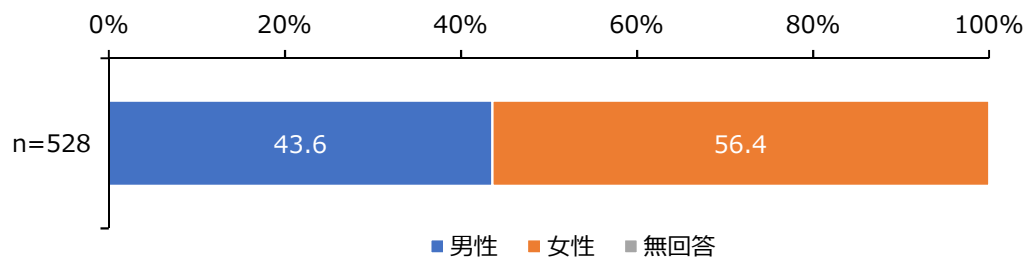
参考 前回調査

仕様項目	仕様
調査対象者	甲州市民より1,500人を無作為に抽出（20歳以上）
調査方法	調査票の配付・回収（郵送）
調査期間	平成27年6月
回収数計	703 票（46.9%）

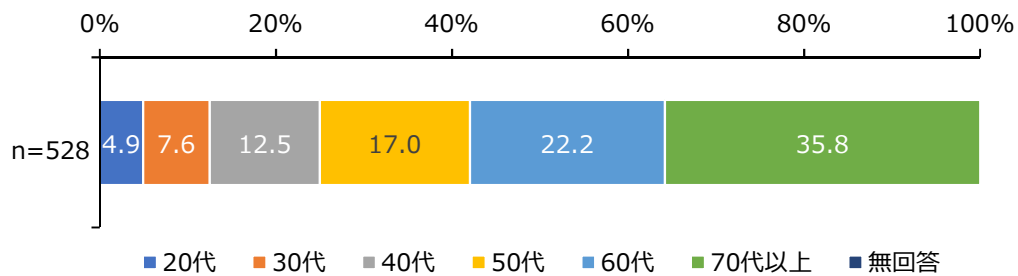
2.調査結果

回答者の属性

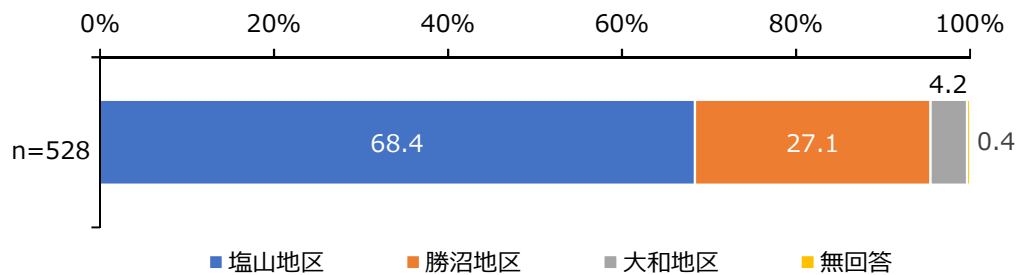
問 1：性別（SA）



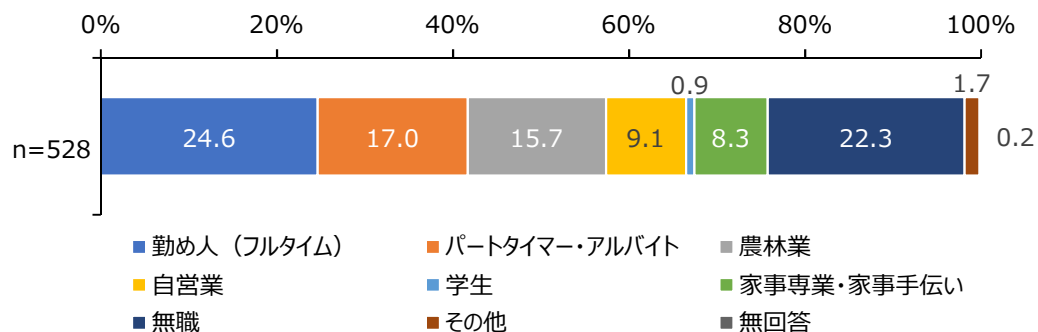
問 2：年齢（SA）



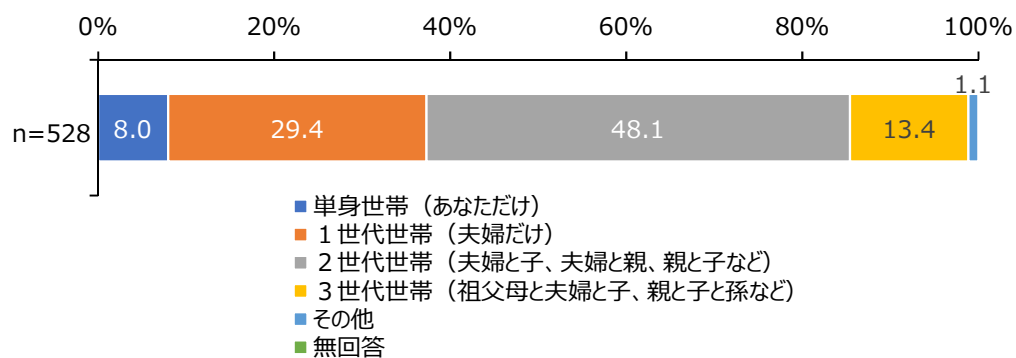
問 3：居住地域（SA）



問 4 : 職業 (SA)



問 5 : 家族構成 (SA)

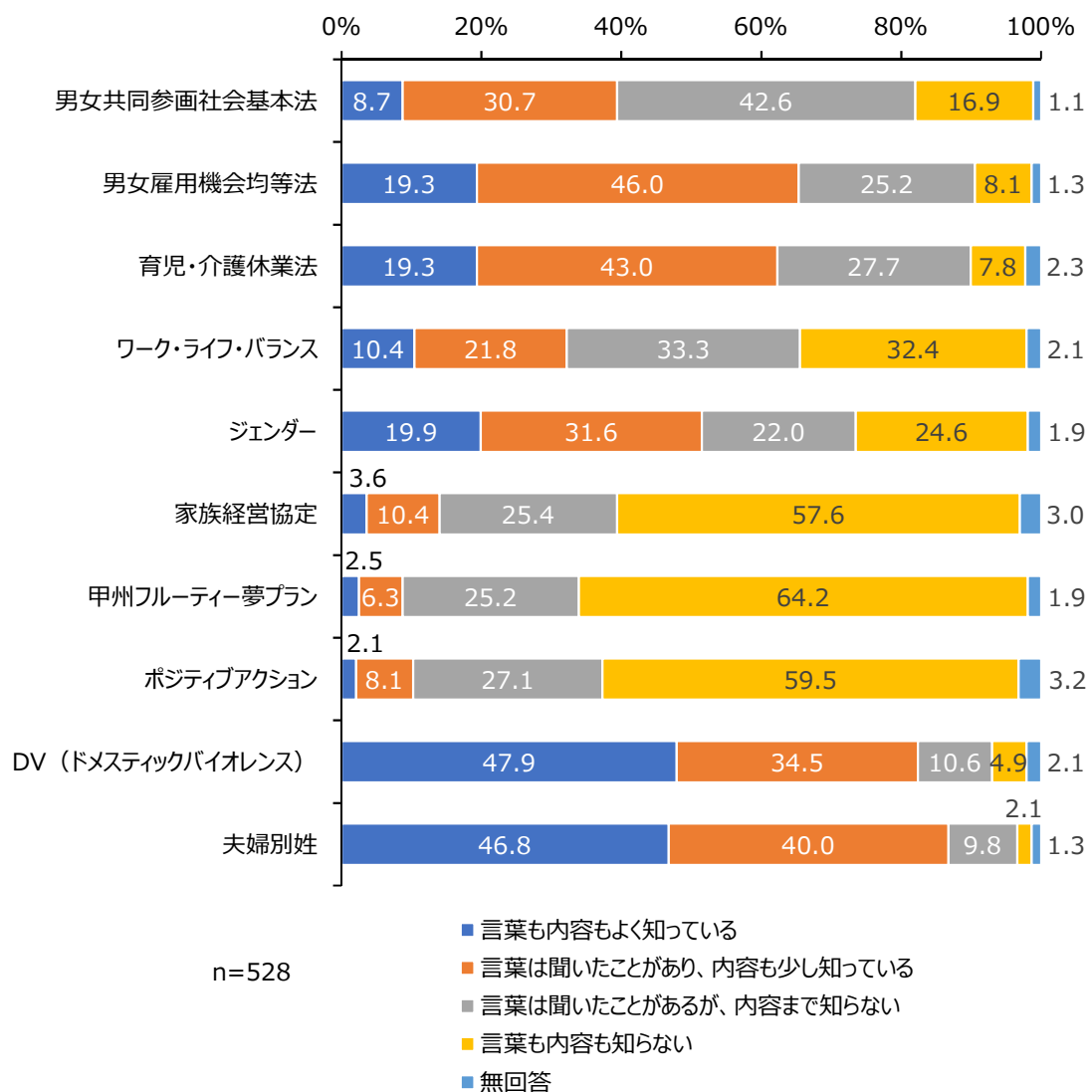


ことばの認知度

問 6：男女共同参画にかかわる言葉の認知（SA）

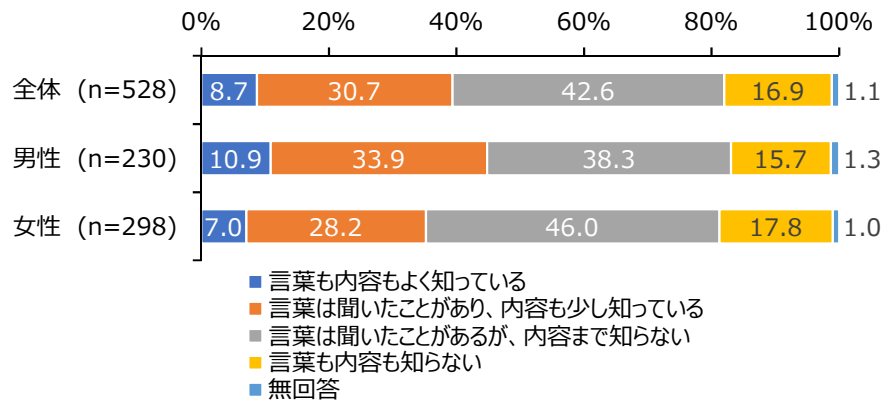
男女共同参画にかかわる言葉については、項目によって認知度に差がみられる。

「DV（ドメスティックバイオレンス）」「夫婦別姓」については、「言葉も内容もよく知っている」と回答した割合がそれぞれ 47.9%、46.8%と 50%弱となっている。一方、「家族経営協定」「甲州フルーティー夢プラン」「ポジティブアクション」については、「言葉も内容もよく知っている」と回答した割合は 5%未満という状況になっている。

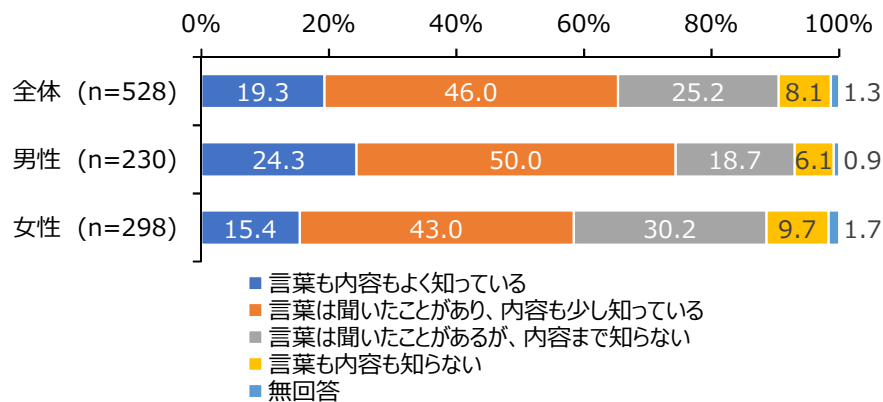


(参考) 問 6 : 男女共同参画にかかわる言葉の認知 (SA) × 問 1 : 性別 (SA)

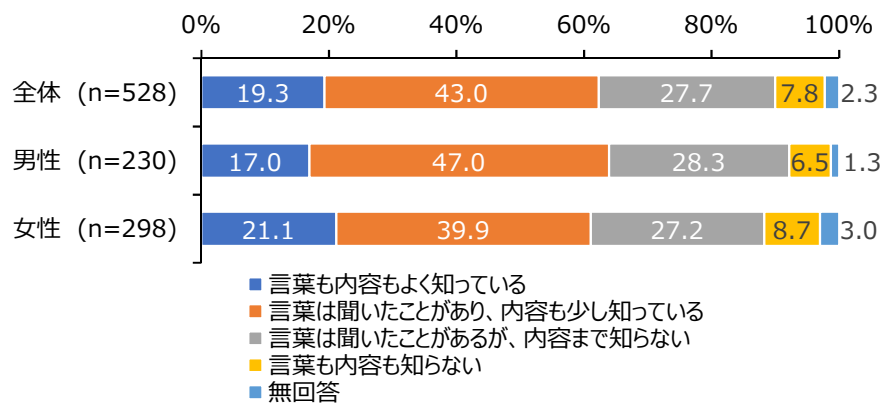
【男女共同参画社会基本法】



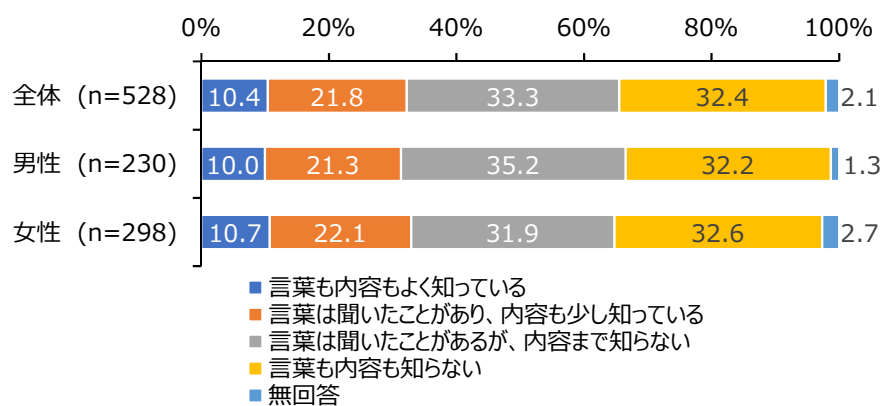
【男女雇用機会均等法】



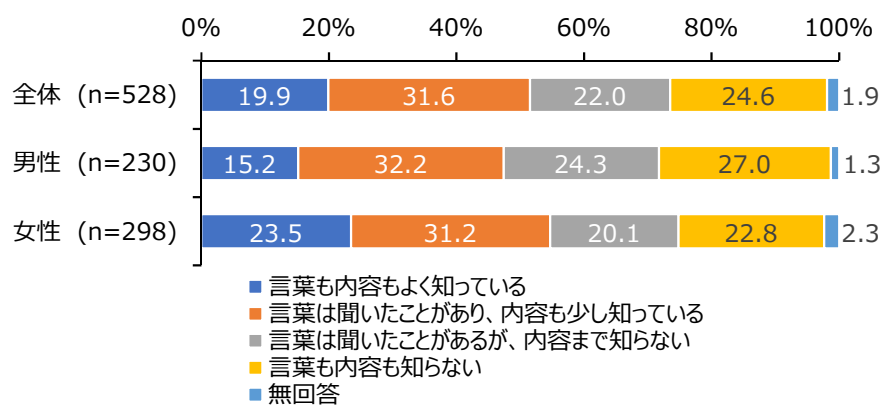
【育児・介護休業法】



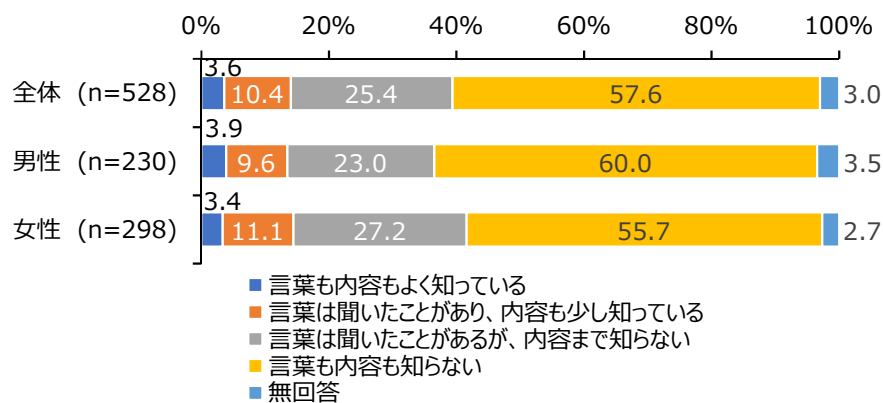
【ワーク・ライフ・バランス】



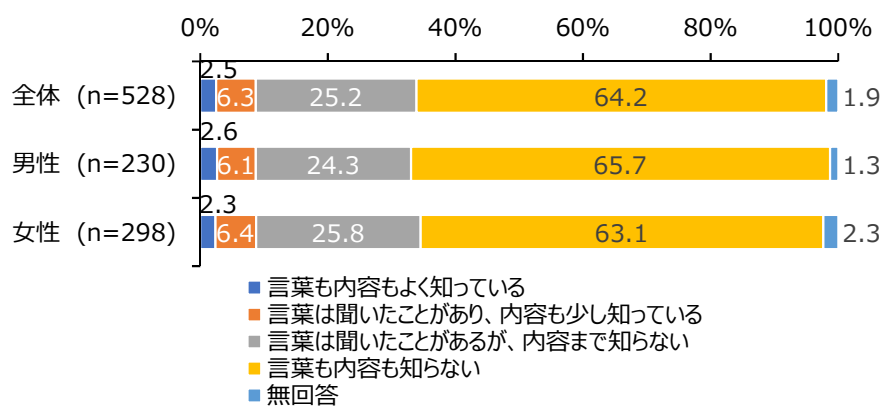
【ジェンダー】



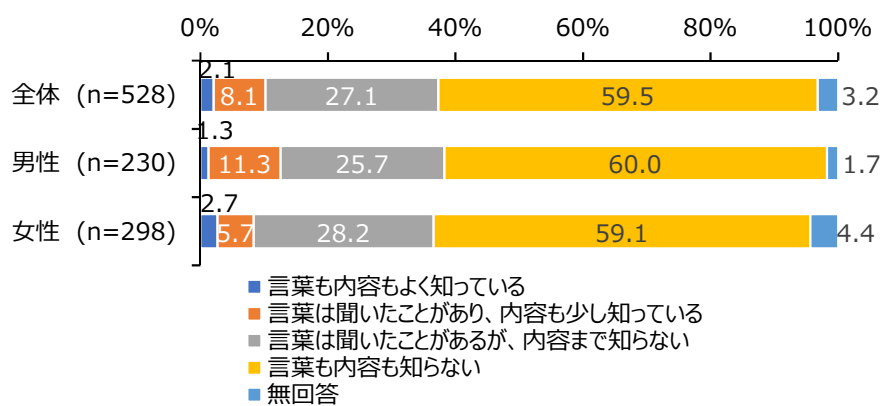
【家族経営協定】



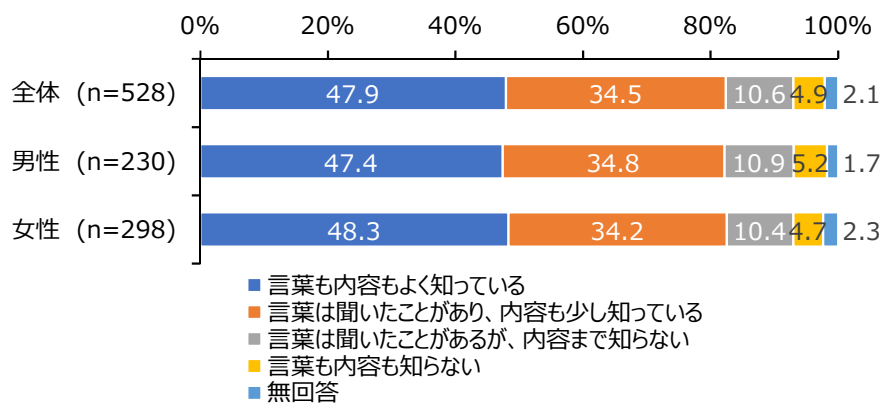
【甲州フルーティー夢プラン】



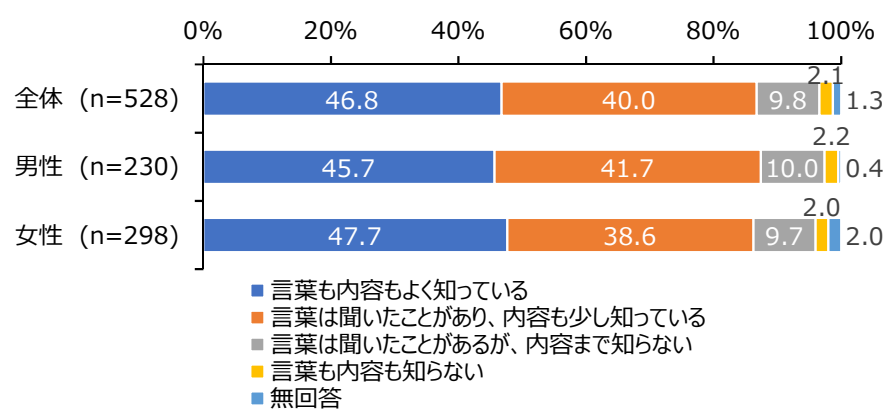
【ポジティブアクション】



【DV（ドメスティックバイオレンス）】



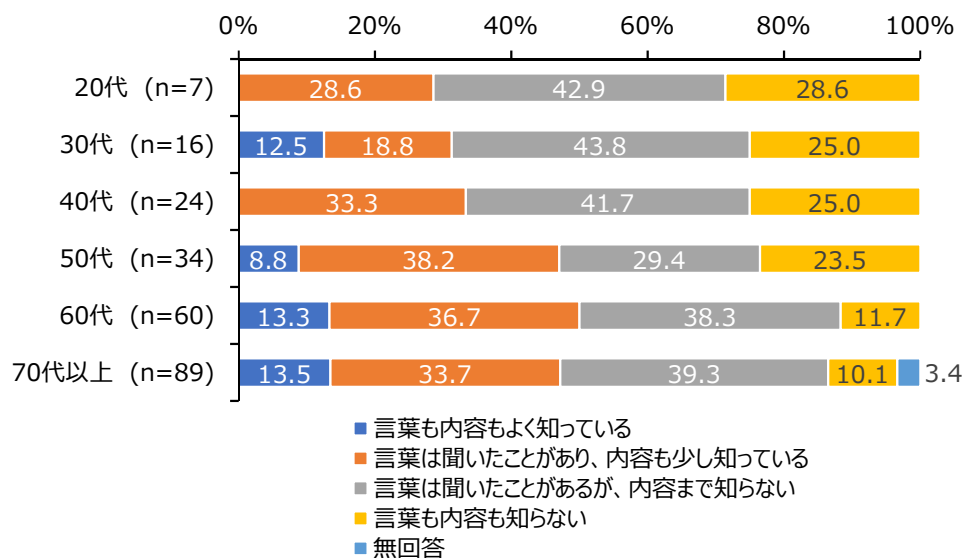
【夫婦別姓】



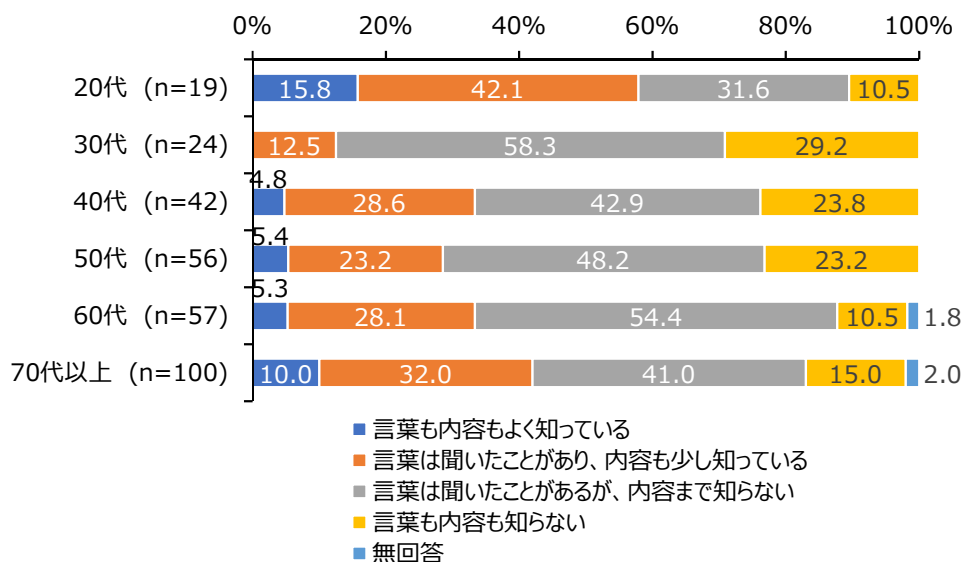
(参考) 問6：男女共同参画にかかわる言葉の認知 (SA) × 問1 性別 (SA) × 問2：年齢 (SA)

【男女共同参画社会基本法】

【男性】

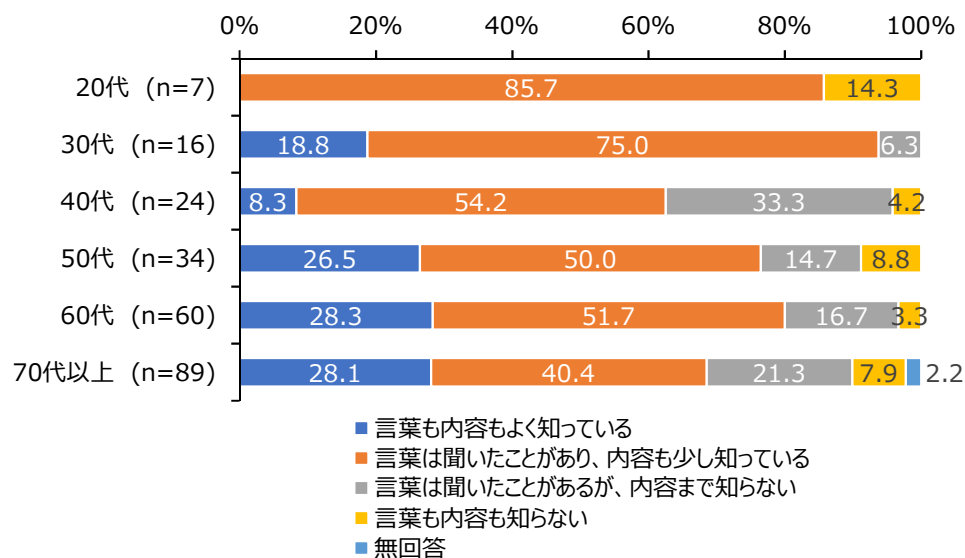


【女性】

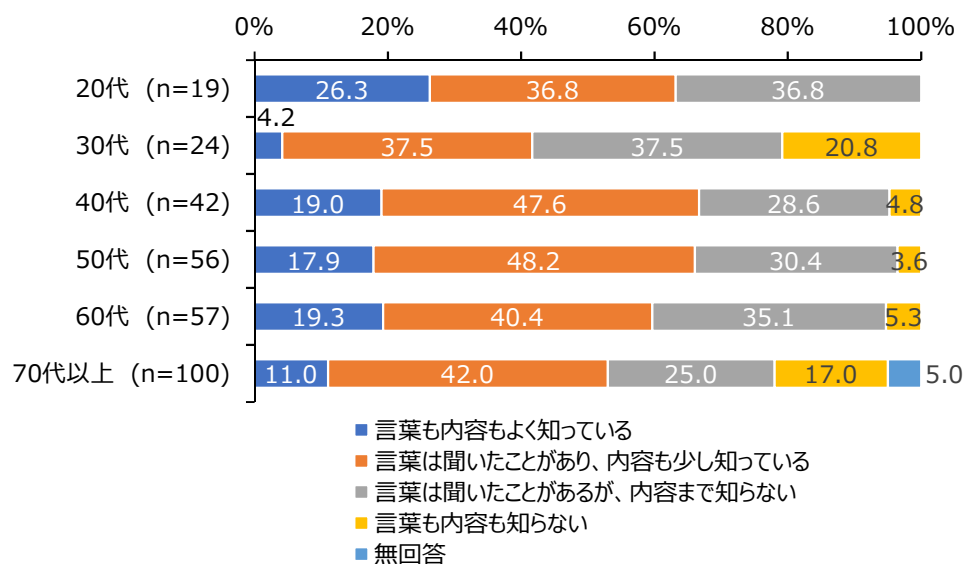


【男女雇用機会均等法】

【男性】

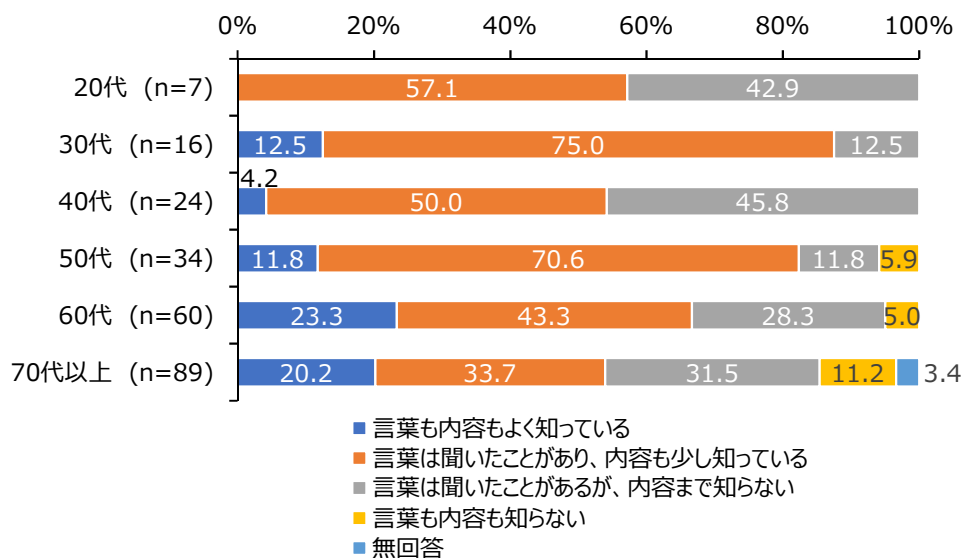


【女性】

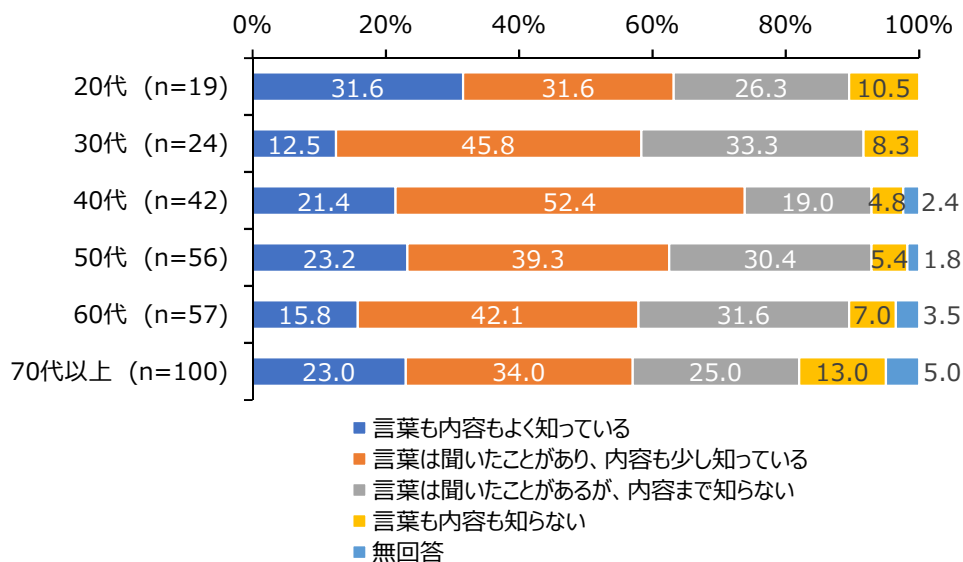


【育児・介護休業法】

【男性】

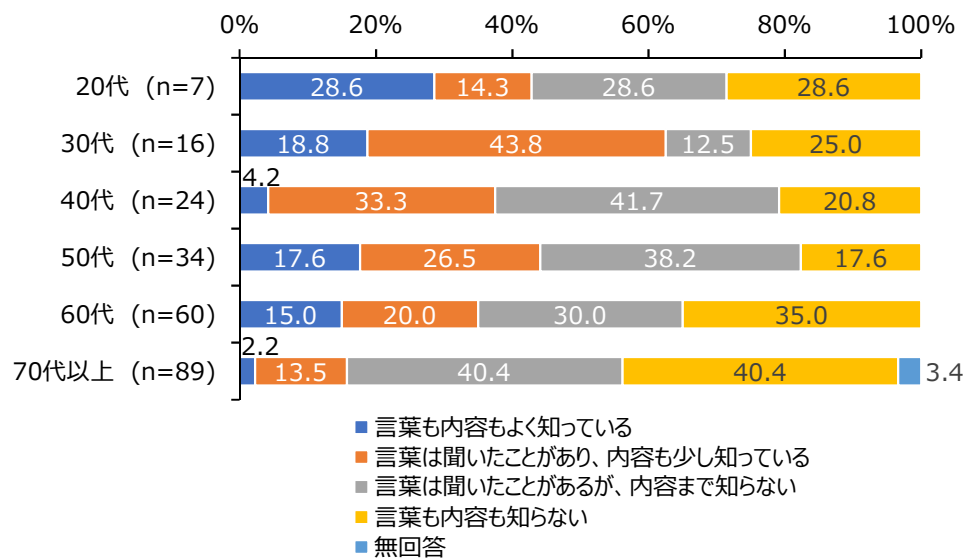


【女性】

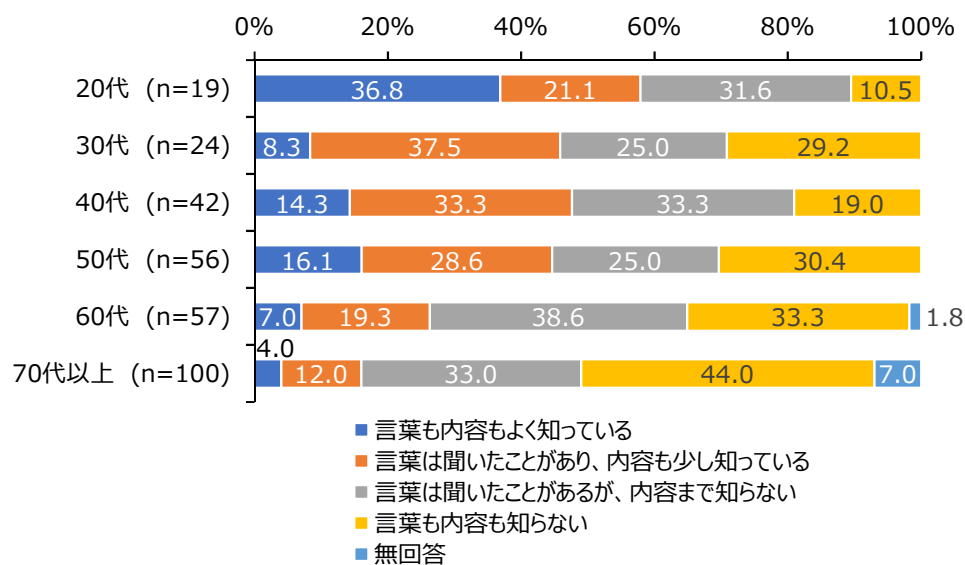


【ワーク・ライフ・バランス】

【男性】

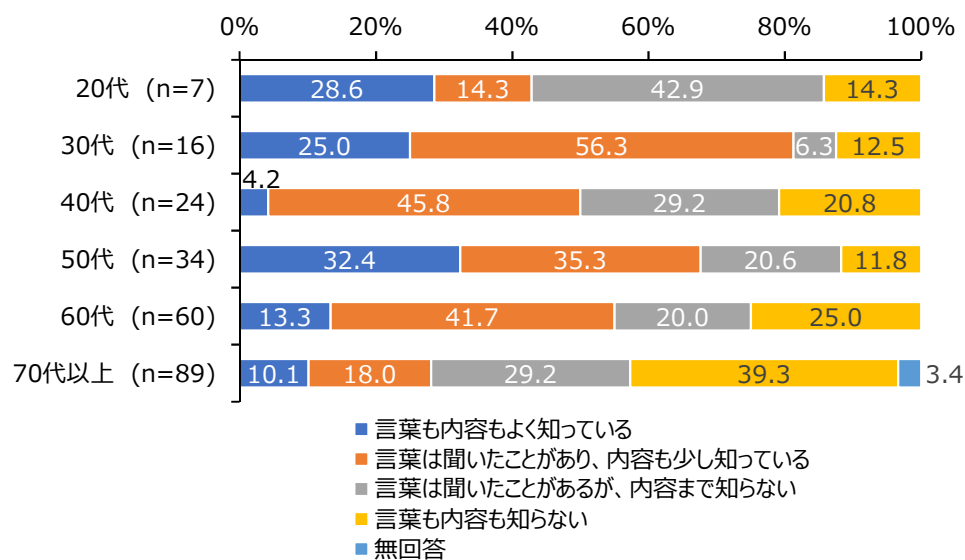


【女性】

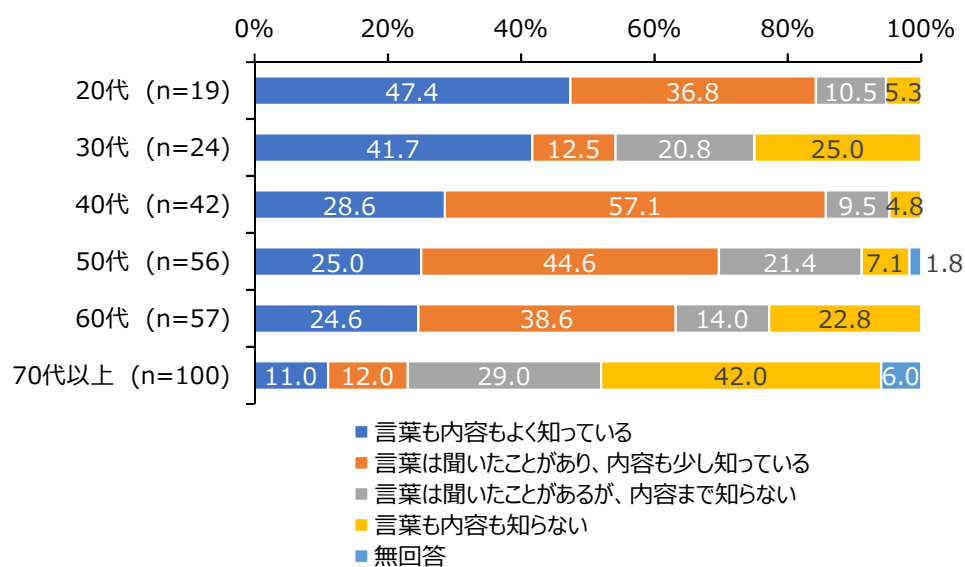


【ジェンダー】

【男性】

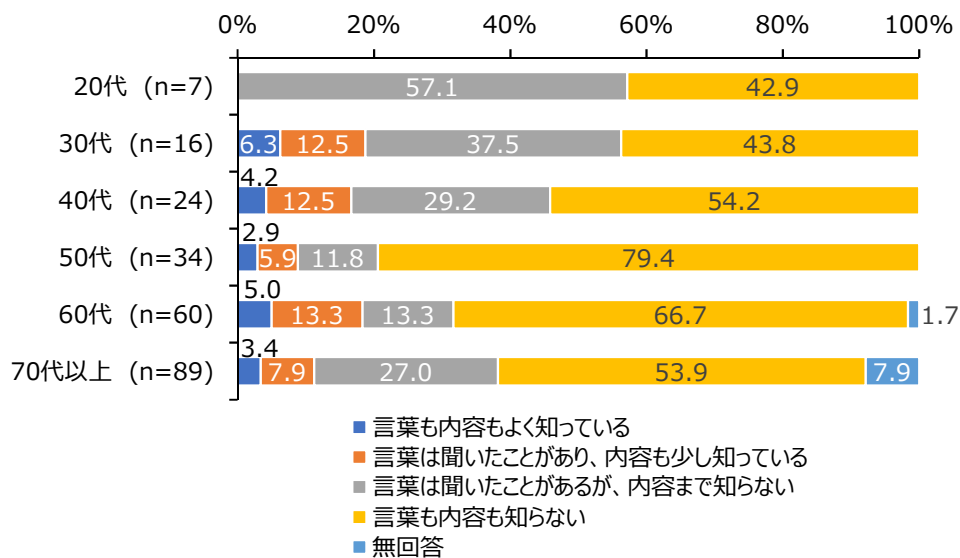


【女性】

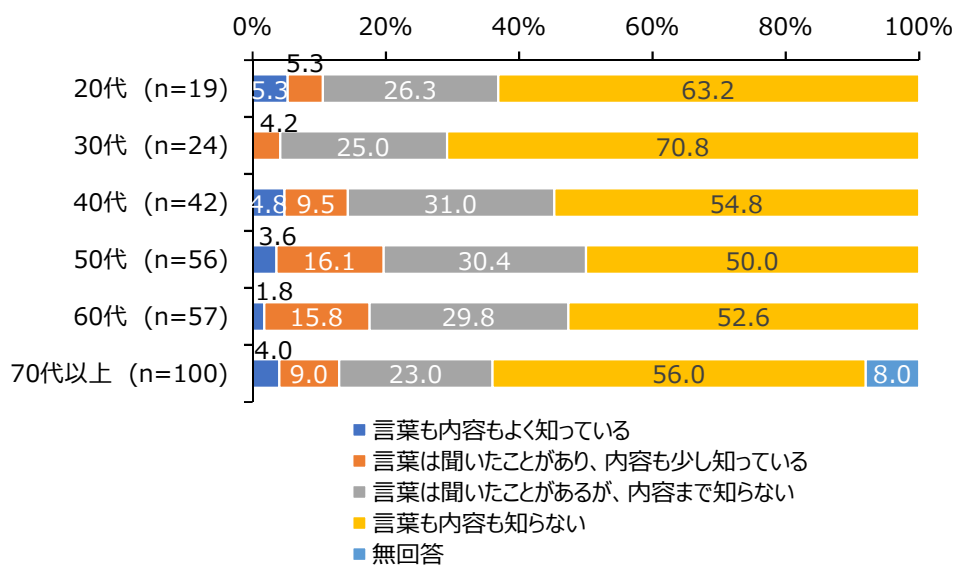


【家族経営協定】

【男性】

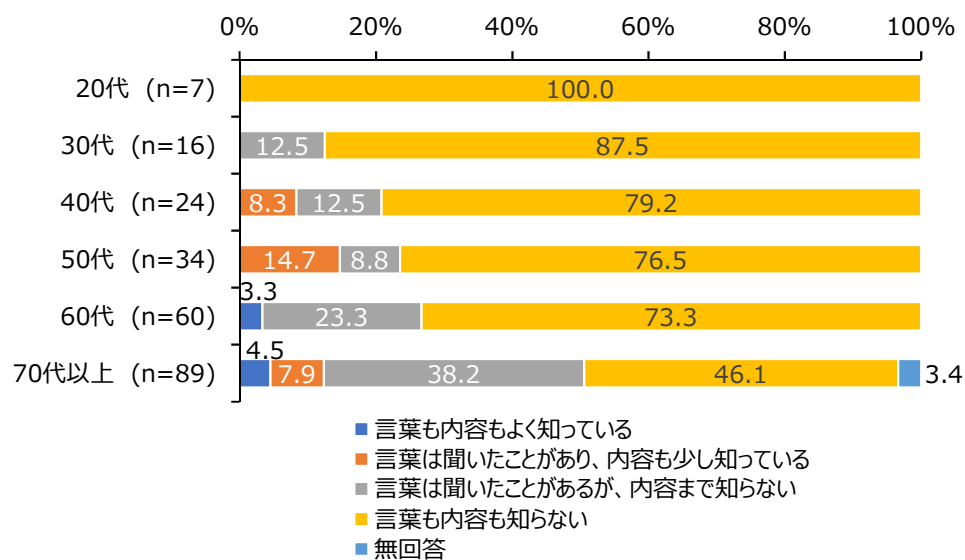


【女性】

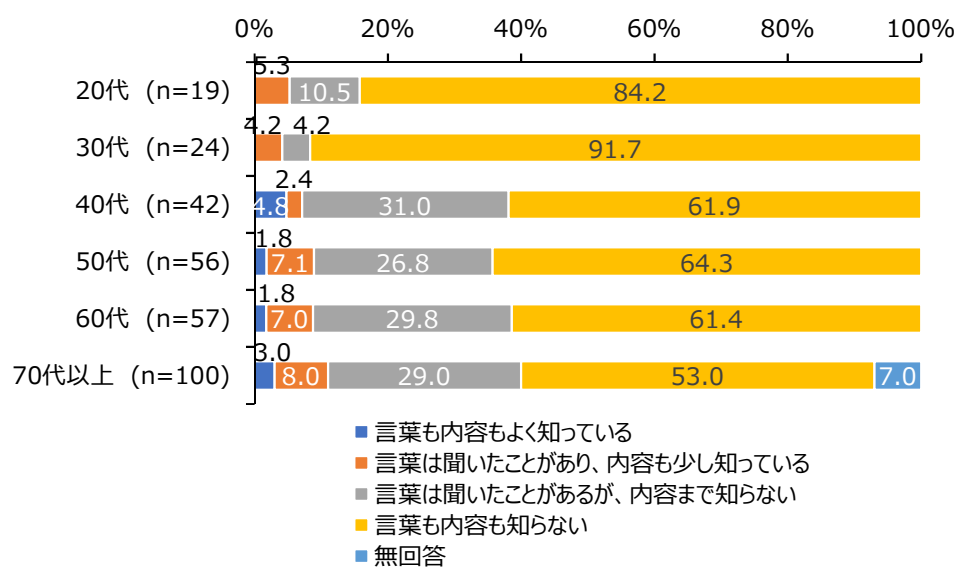


【甲州フルーティー夢プラン】

【男性】

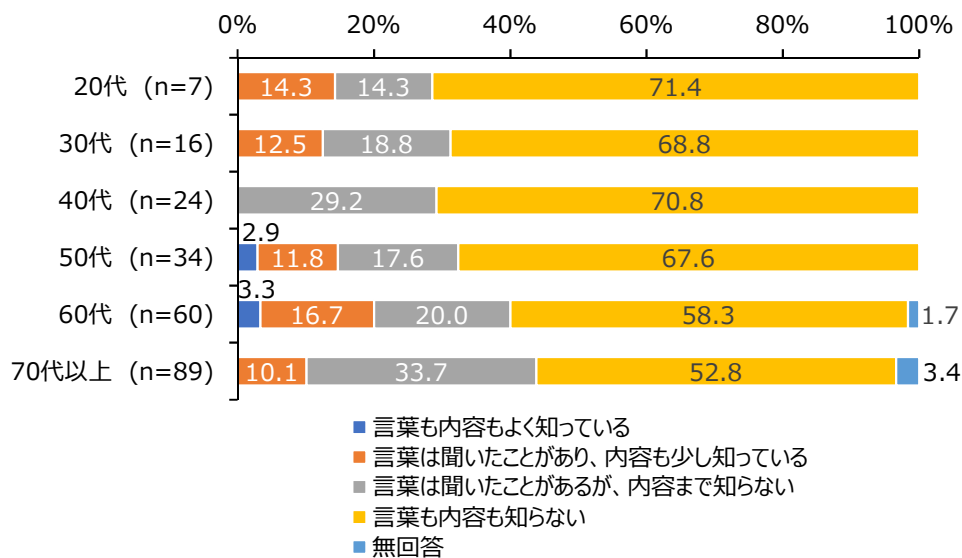


【女性】

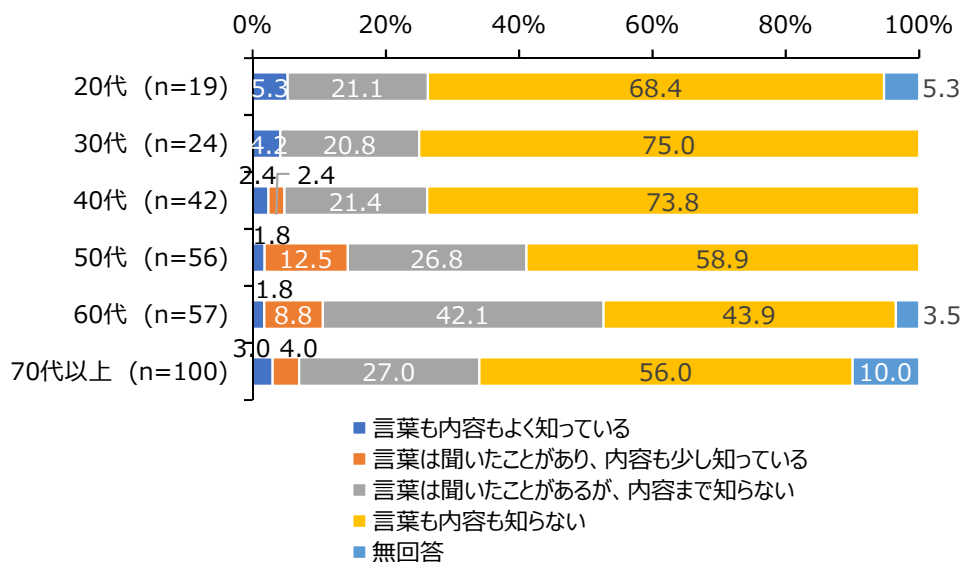


【ポジティブアクション】

【男性】

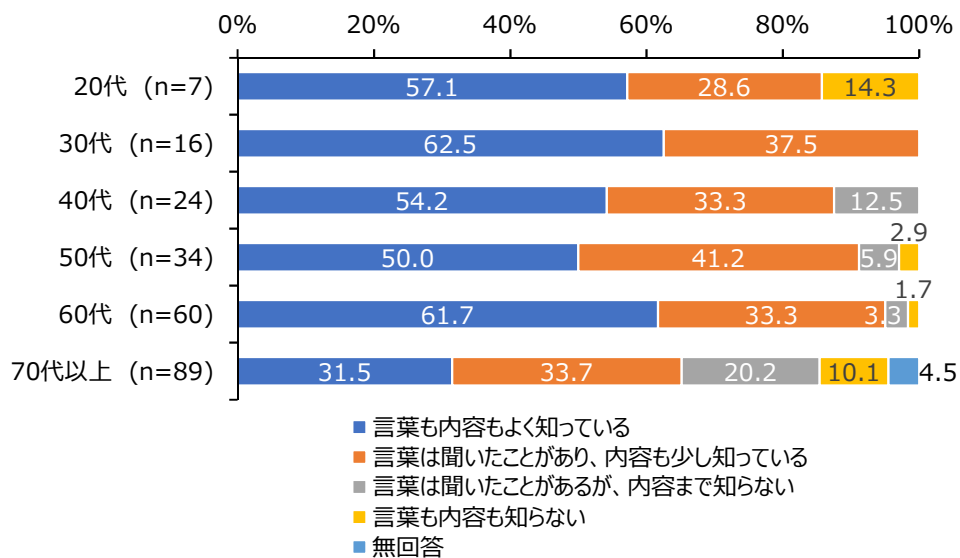


【女性】

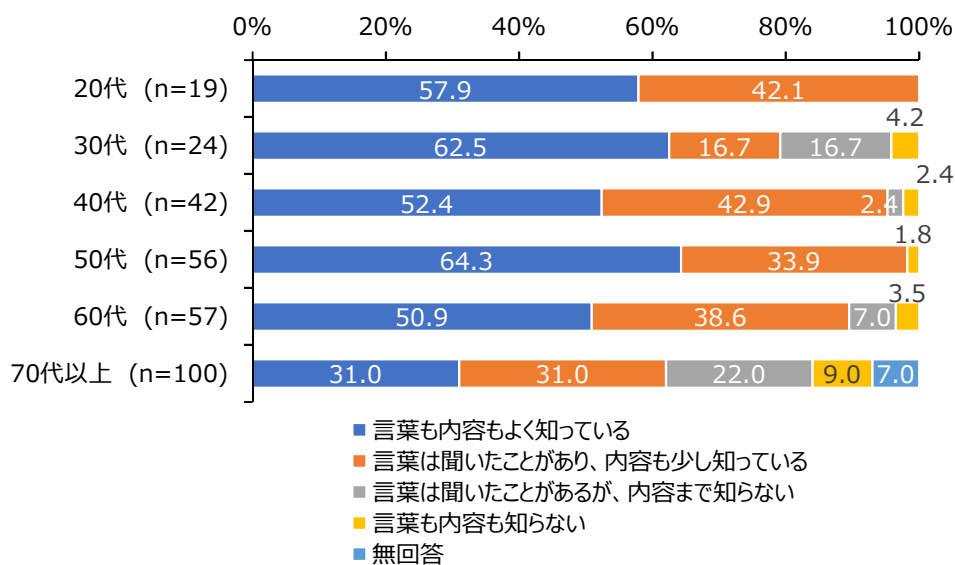


【DV（ドメスティックバイオレンス）】

【男性】

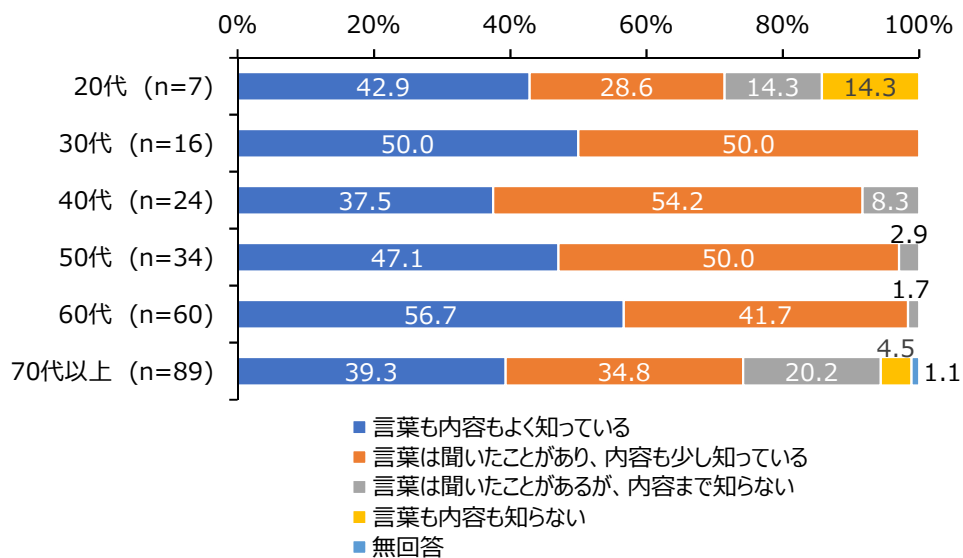


【女性】

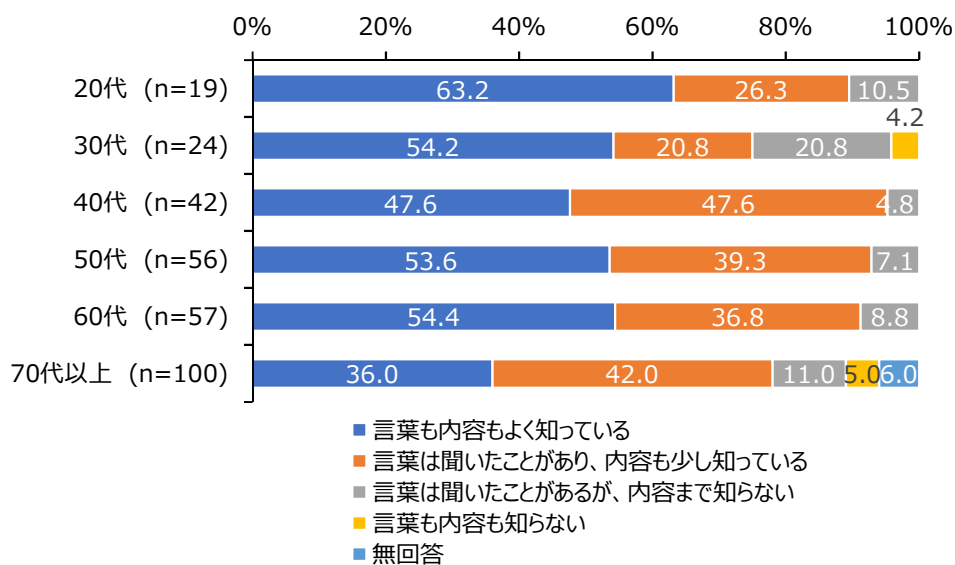


【夫婦別姓】

【男性】



【女性】

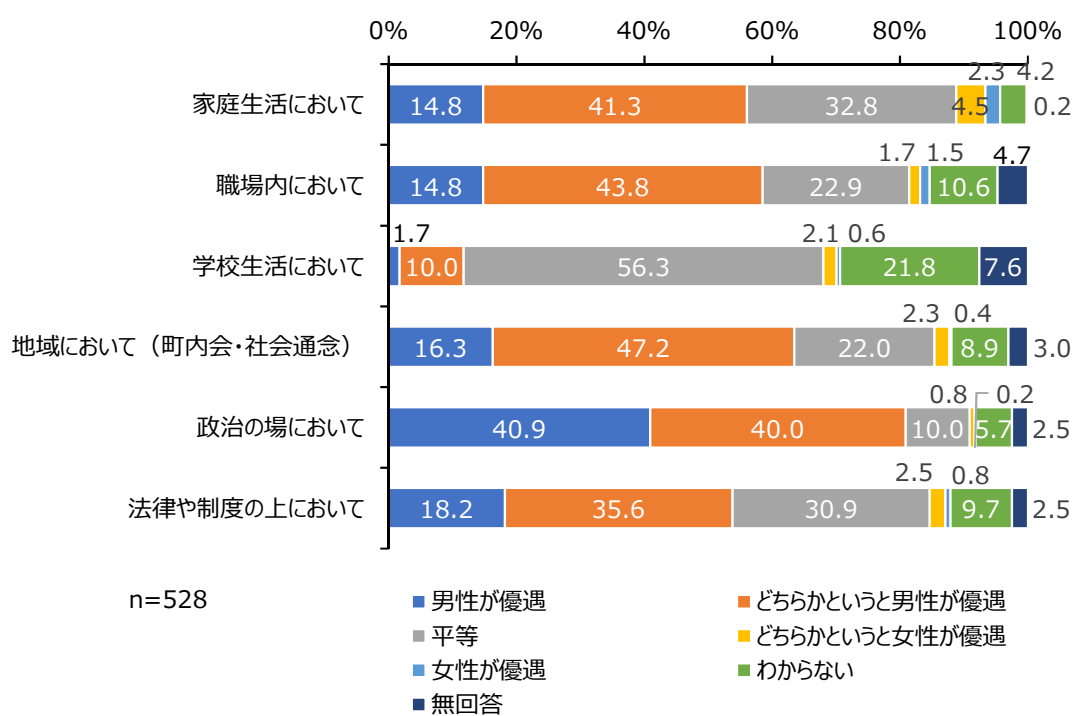


男女平等について

問 7：男女の地位は平等になっていると思うか（SA）

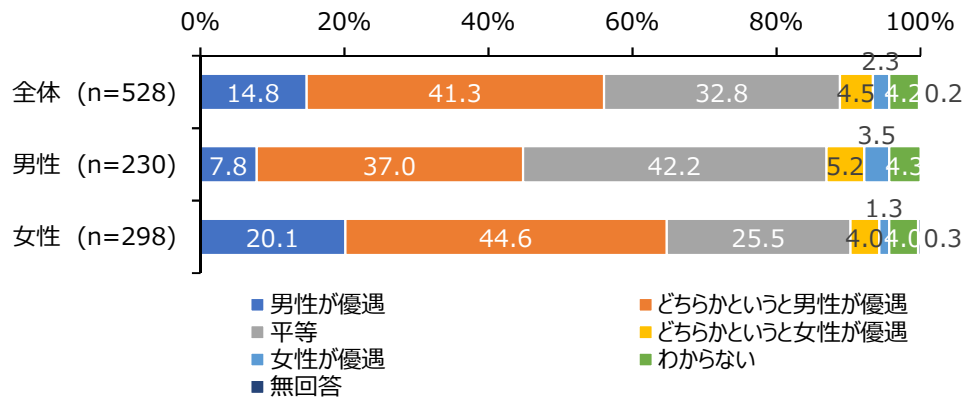
男女の地位の平等については、項目によって認識に差がみられる。

「学校生活において」は、「平等」と回答した割合が 56.3%と 50%を超えている。一方、その他の項目については、「男性が優遇（「どちらかというと男性が優遇」含む）」と回答した割合がいずれも 50%を超える状況であり、とくに「政治の場において」は、80.9%となっている。

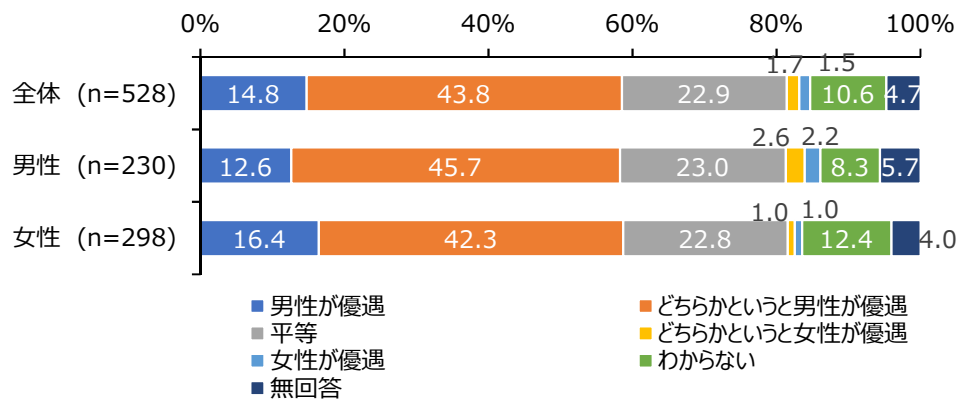


(参考) 問 7 : 男女の地位は平等になっていると思うか (SA) × 問 1 : 性別 (SA)

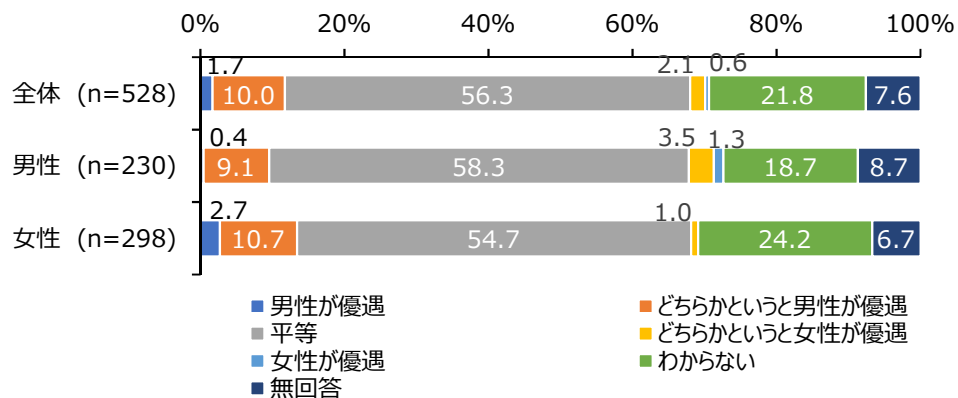
【家庭生活において】



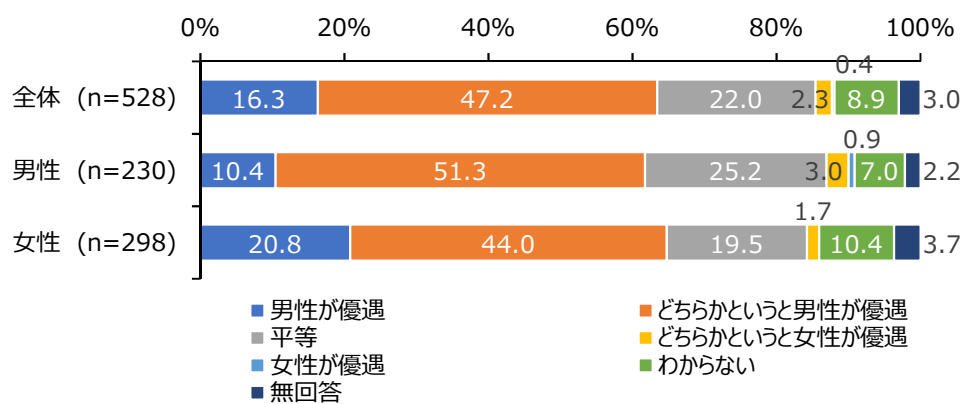
【職場内において】



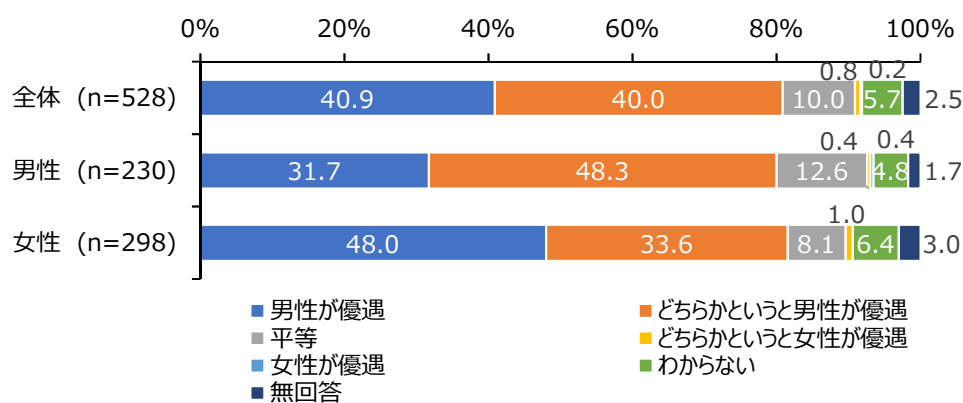
【学校生活において】



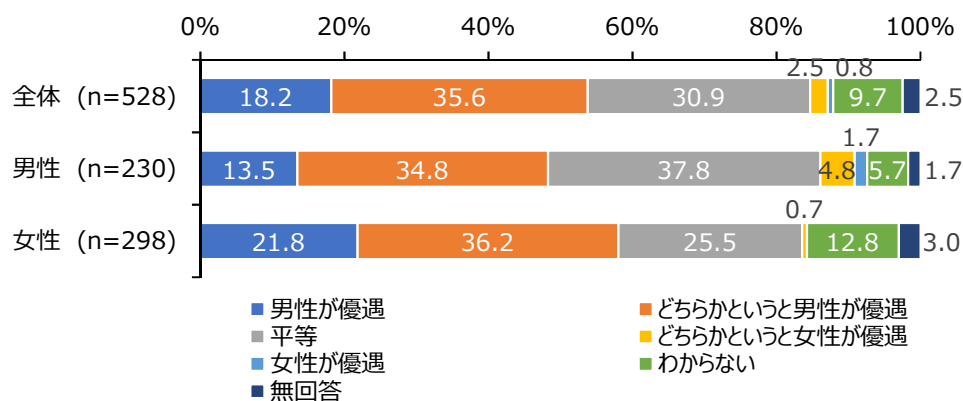
【地域において】



【政治の場において】

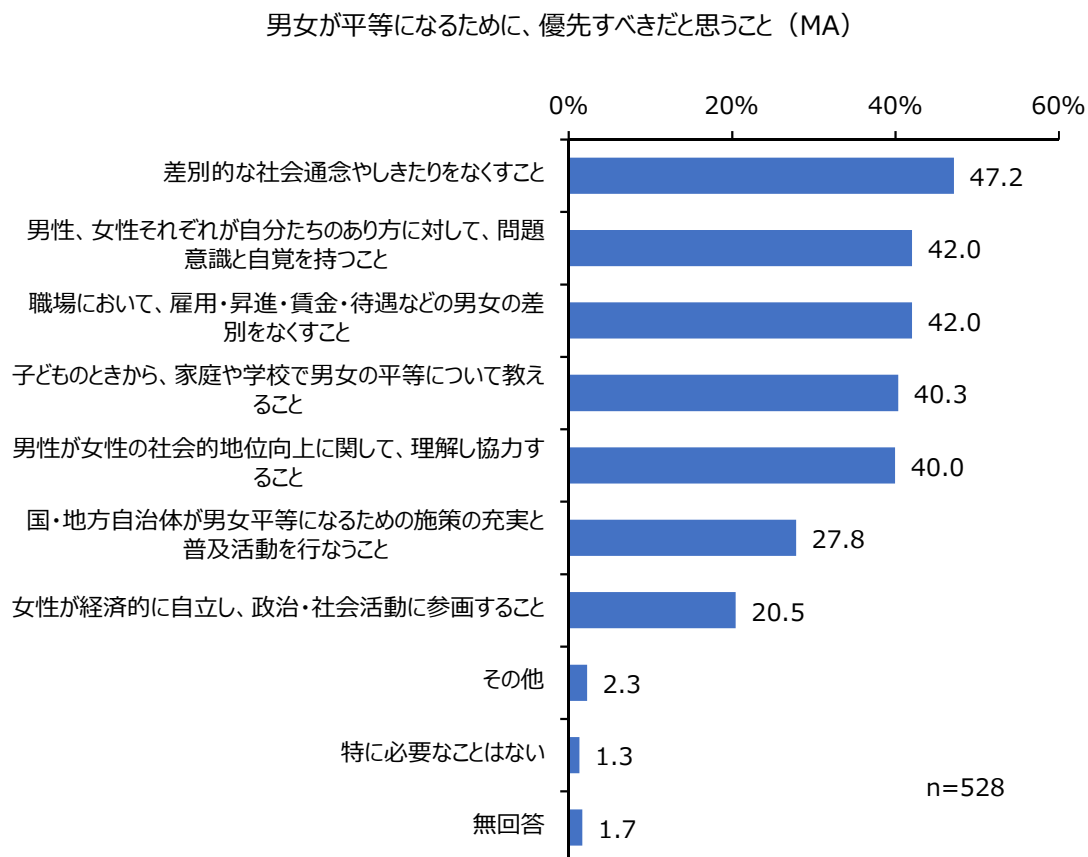


【法律や制度の上において】

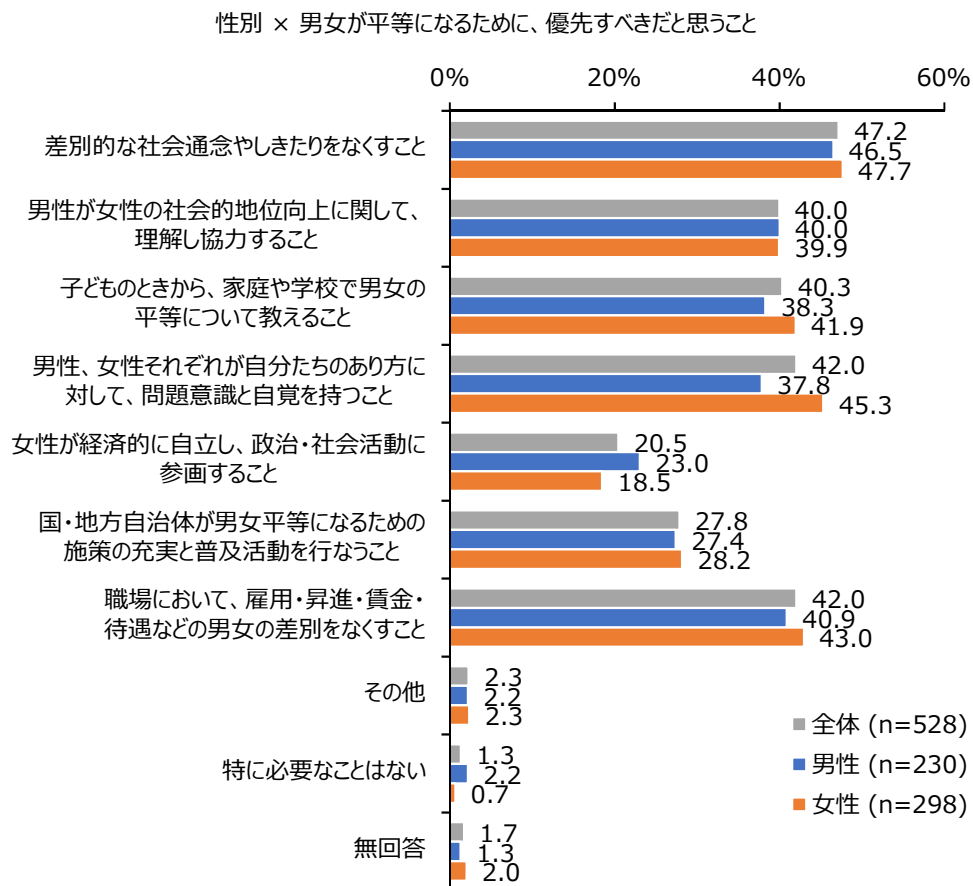


問 8：男女が平等になるために、優先すべきだと思うこと（MA）

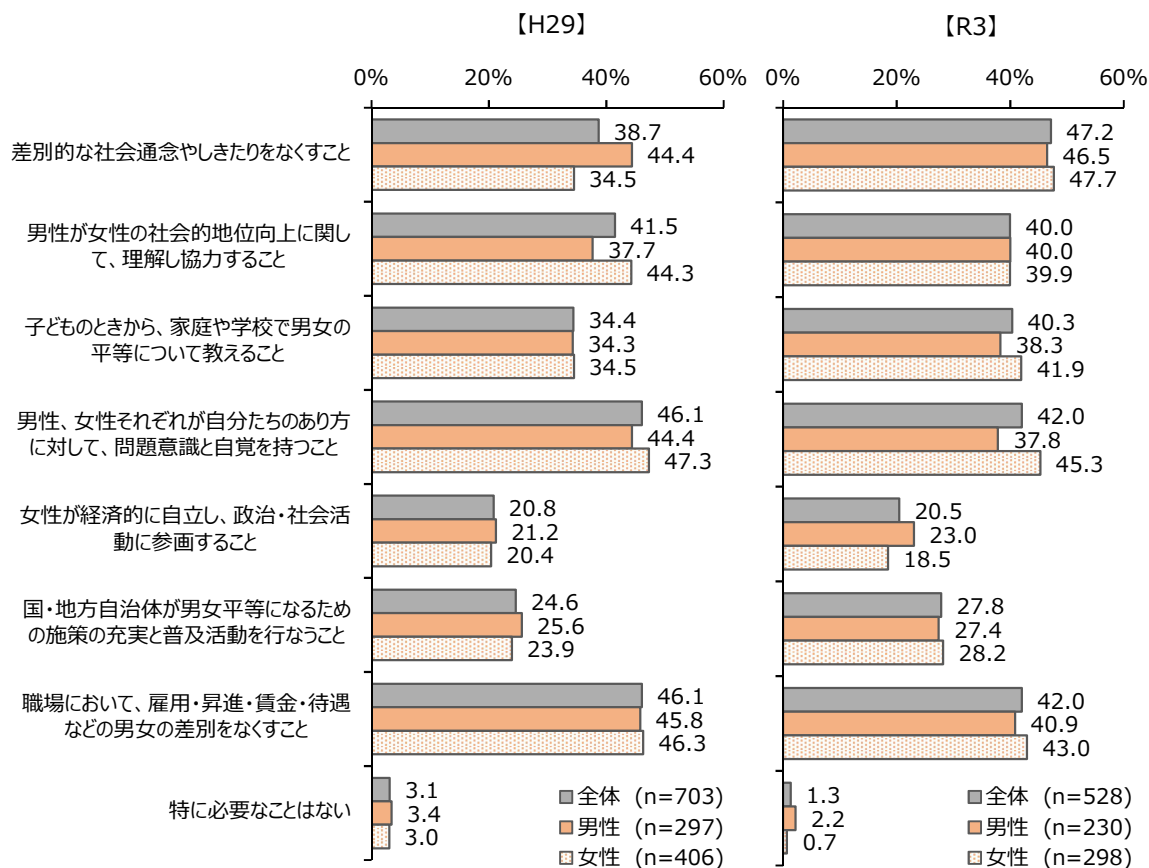
男女が平等になるために、優先すべきだと思うことについては、「差別的な社会通念やしきたりをなくすこと」と回答した割合が 47.2%と最も多く、次いで、「男性、女性それぞれが自分たちのあり方に対して、問題意識と自覚を持つこと」「職場において、雇用・昇進・賃金・待遇などの男女の差別をなくすこと」と回答した割合がそれぞれ 42.0%となっている。



(参考) 問 8 : 男女が平等になるために、優先すべきだと思うこと (MA) × 問 1 : 性別 (SA)

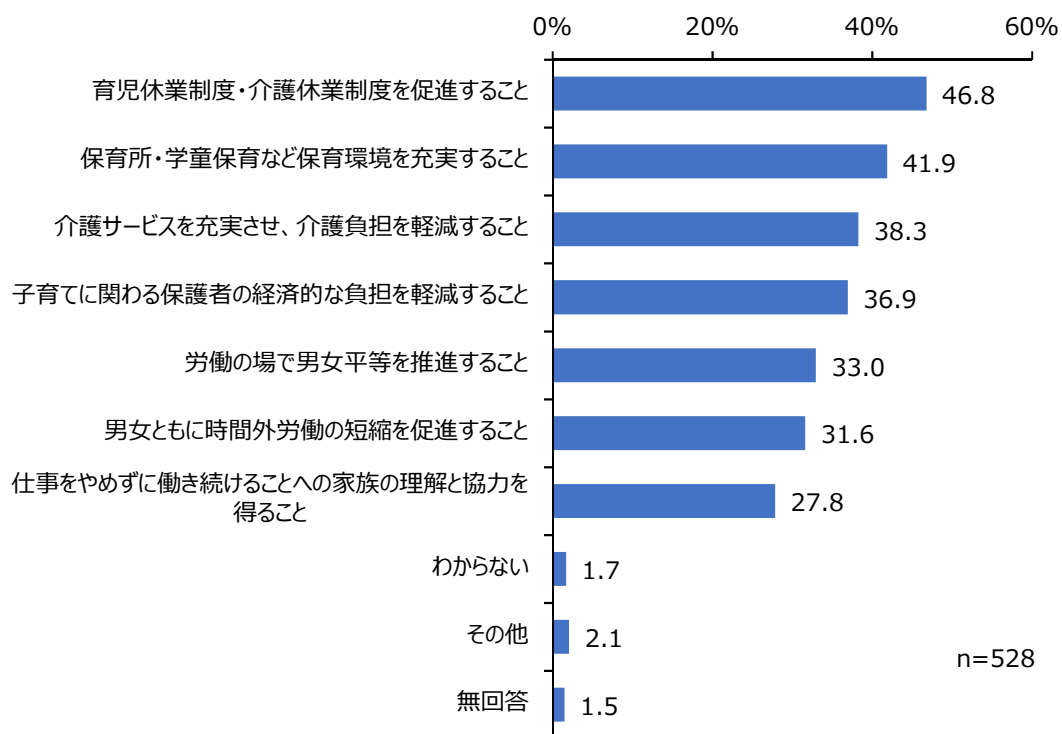


(参考) 問 8 : 男女が平等になるために、優先すべきだと思うこと (MA) ■ 前回比較

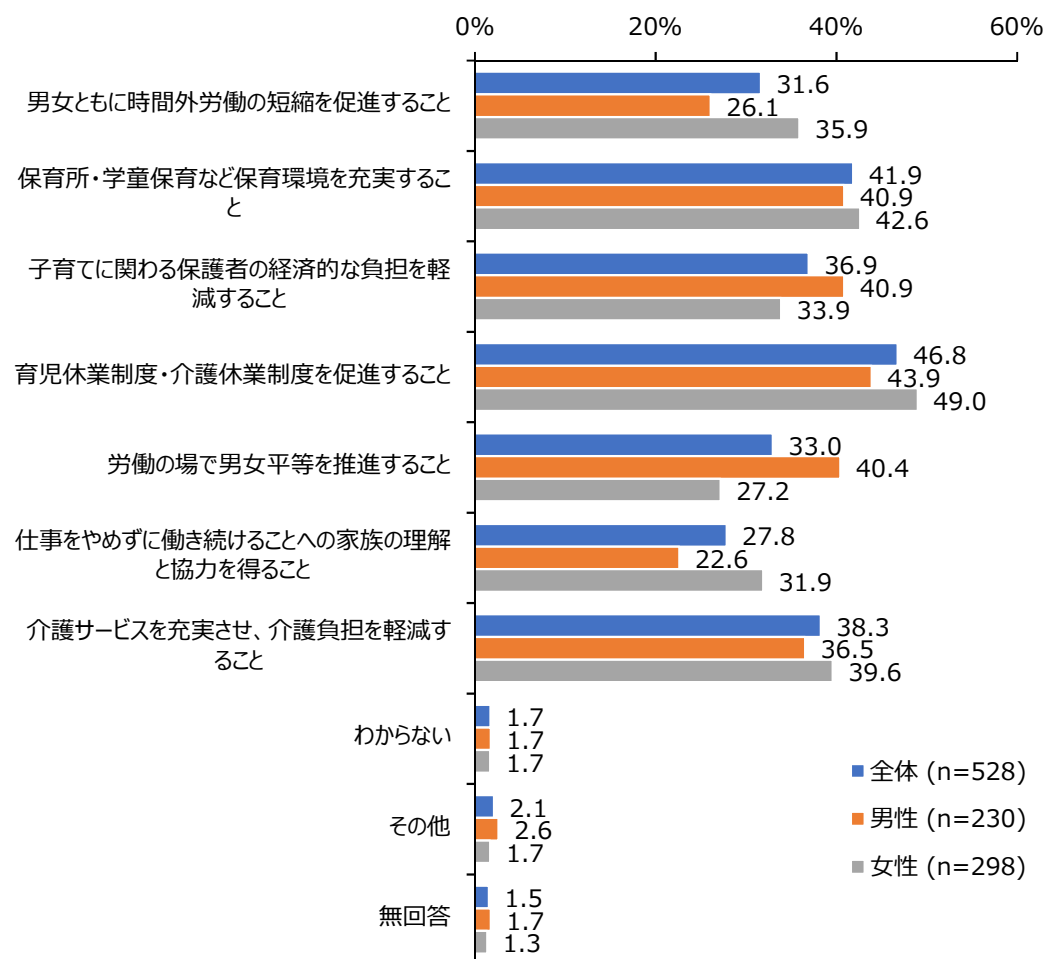


問 9：男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと（MA）

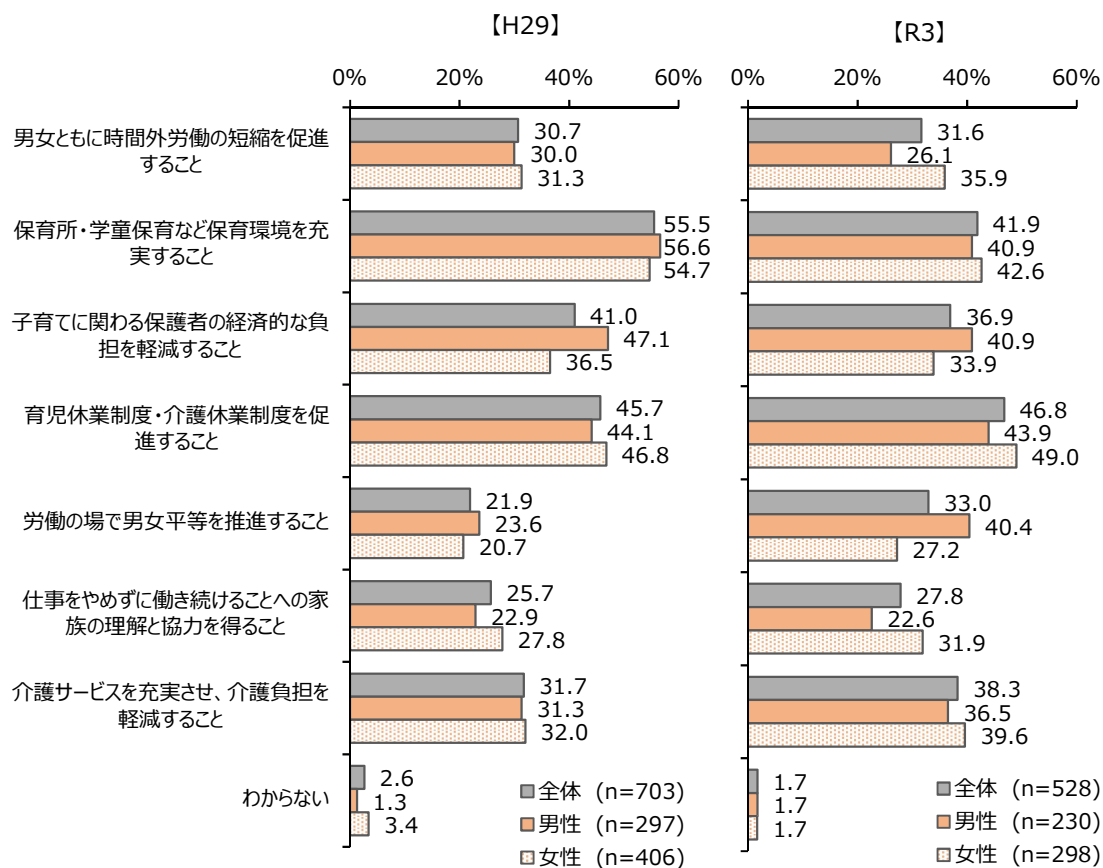
男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うことについては、「育児休業制度・介護休業制度を促進すること」と回答した割合が 46.8%と最も多く、次いで、「保育所・学童保育など保育環境を充実すること」が 41.9%、「介護サービスを充実させ、介護負担を軽減すること」が 38.3%と続いている。



(参考) 問 9：男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと (MA) × 問 1：性別 (SA)

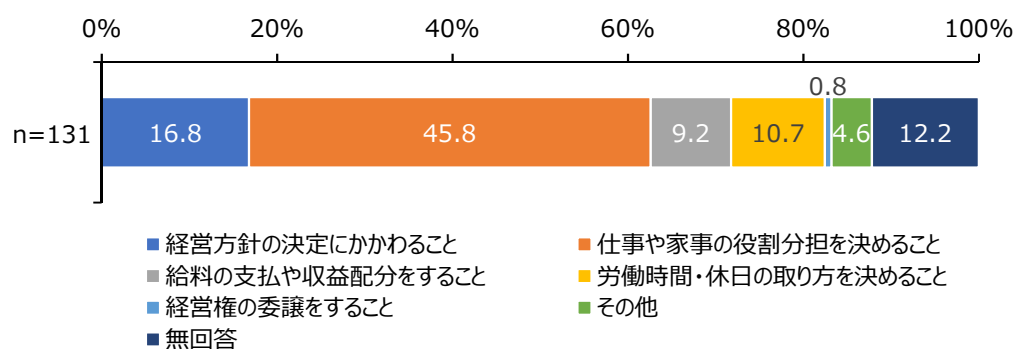


(参考) 問 9：男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと (MA) ■ 前回比較



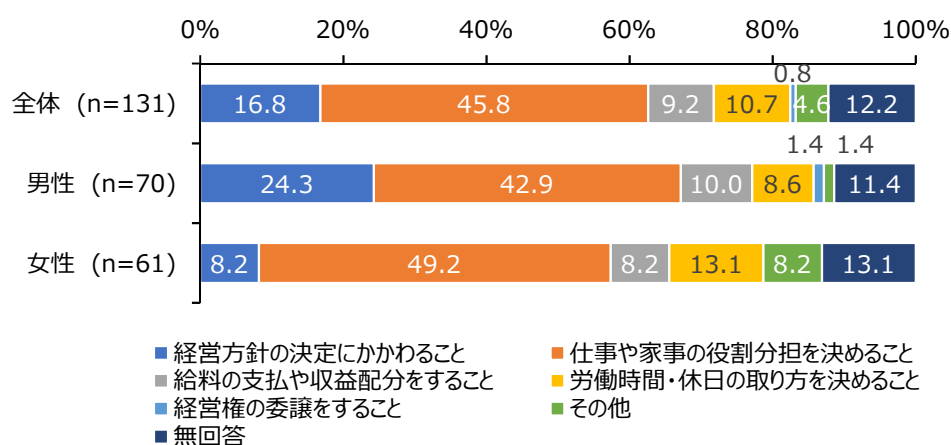
問 10：農林業・自営業の従事者として、男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと（SA）

農林業・自営業の従事者として、男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うことについては、「仕事や家事の役割分担を決めること」と回答した割合が 45.8%と最も多く、次いで、「経営方針の決定にかかわること」が 16.8%、「労働時間・休日の取り方を決めること」が 10.7%と続いている。



※問 4 で「農林業」「自営業」と回答した方

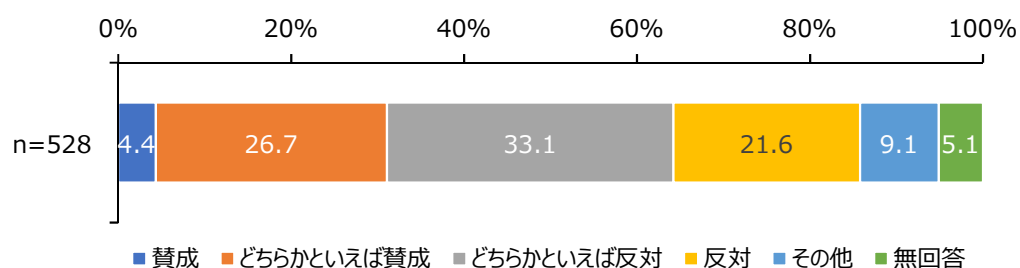
（参考）問 10：農林業・自営業の従事者として、男女が働きやすい環境をつくるために必要だと思うこと（SA） × 問 1：性別（SA）



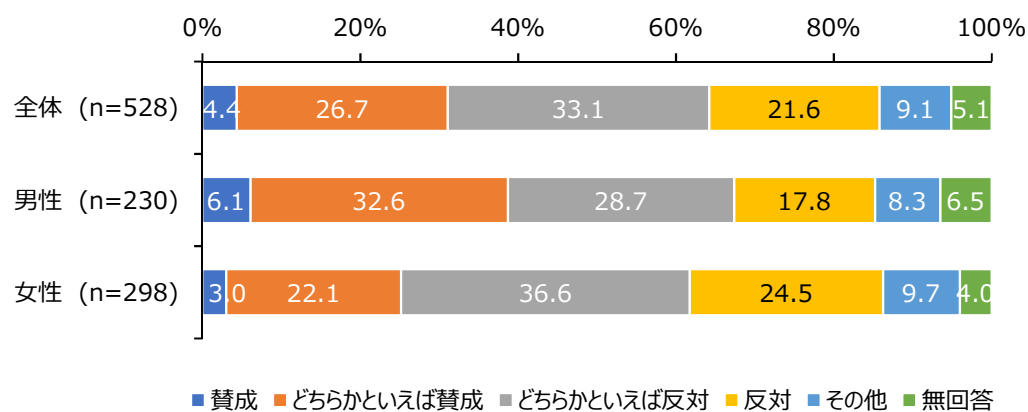
家庭生活について

問 11 : 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うか (SA)

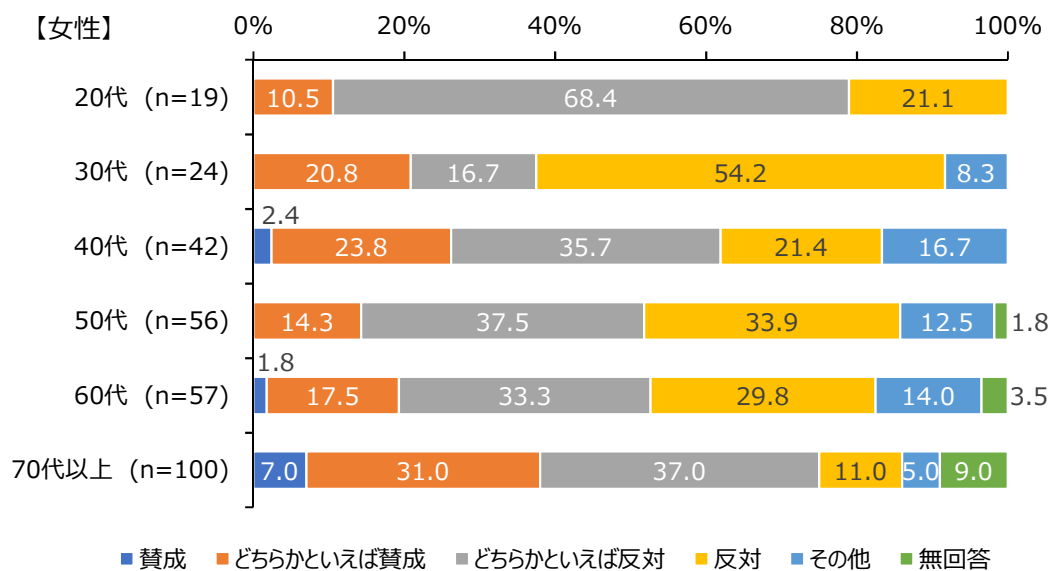
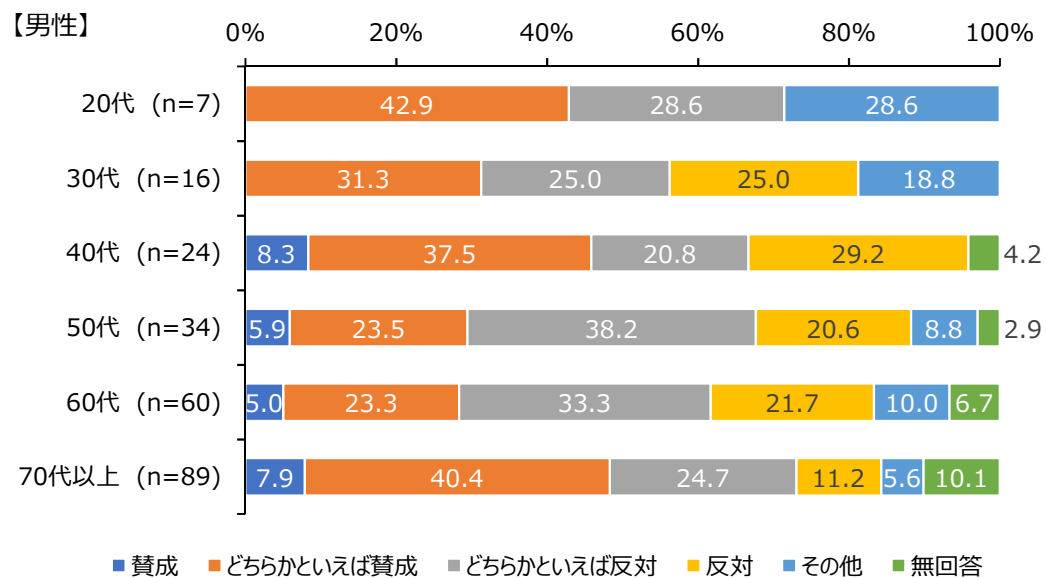
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うかについては、「反対（「どちらかといえば反対」含む）」と回答した割合が 54.7%であり、「賛成（「どちらかといえば賛成」含む）」と回答した割合の 31.1%を上回っている。



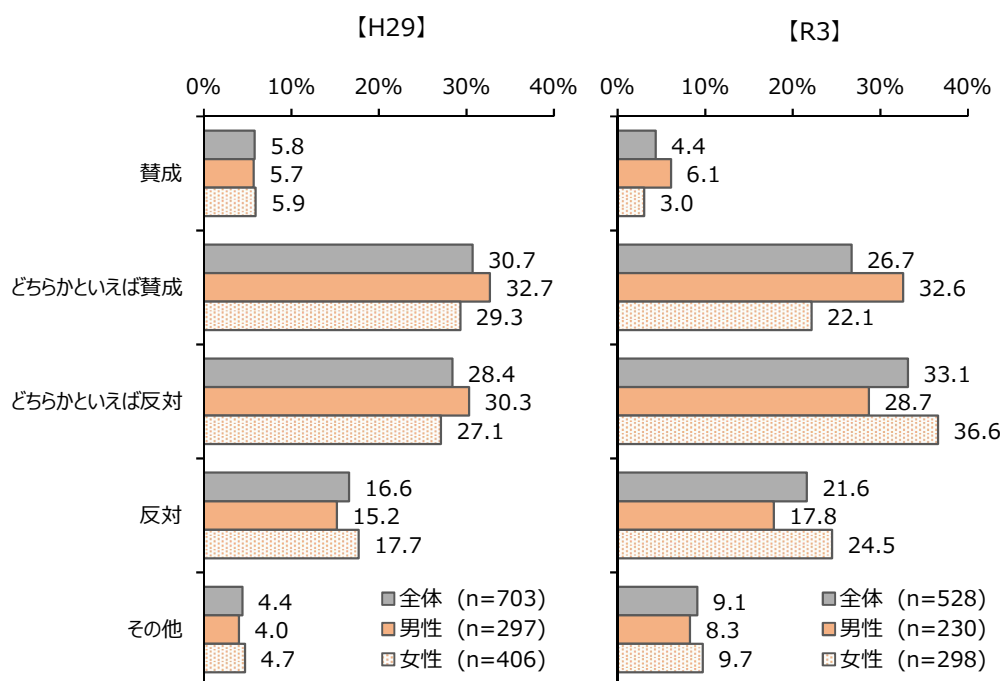
(参考) 問 11 : 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うか (SA) × 問 1 : 性別 (SA)



(参考) 問 11 : 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うか (SA) ×
問 1 : 性別 (SA) × 問 2 : 年齢 (SA)

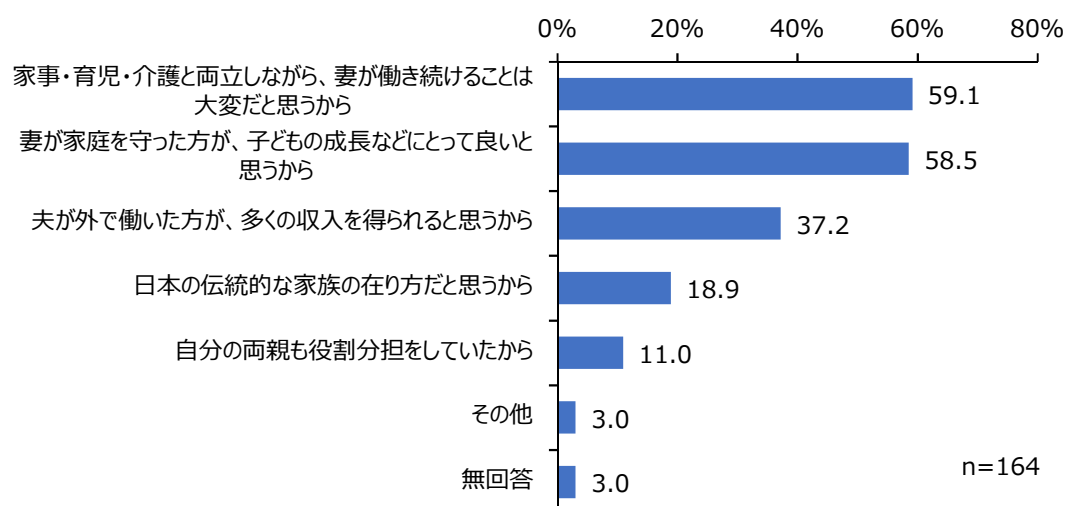


(参考) 問 11 : 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うか (SA) ■
前回比較



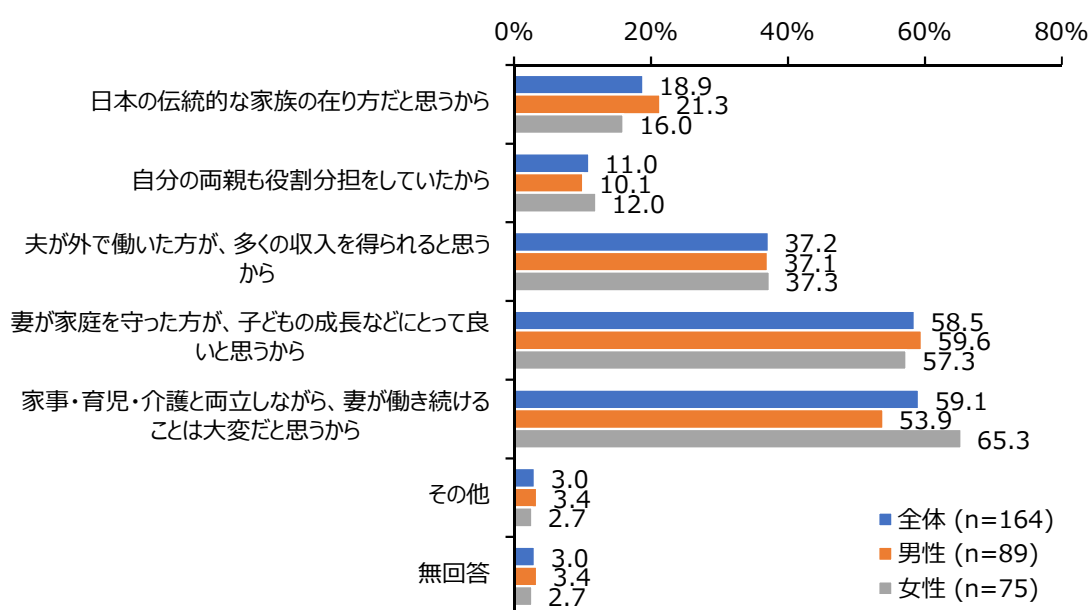
問 11-1 : 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成、どちらかといえば賛成の理由 (MA)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成、どちらかといえば賛成の理由については、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」が 59.1%と最も多く、次いで、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が 58.5%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が 37.2%と続いている。



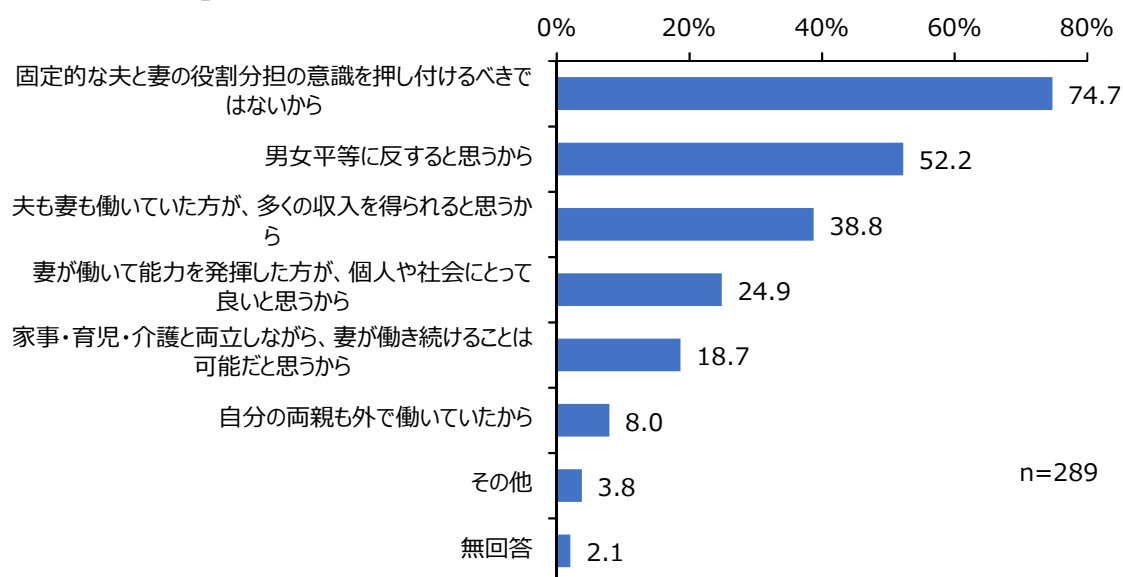
※問 11 で「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した方

(参考) 問 11-1 : 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成、どちらかといえば賛成の理由 (MA) × 問 1 : 性別 (SA)



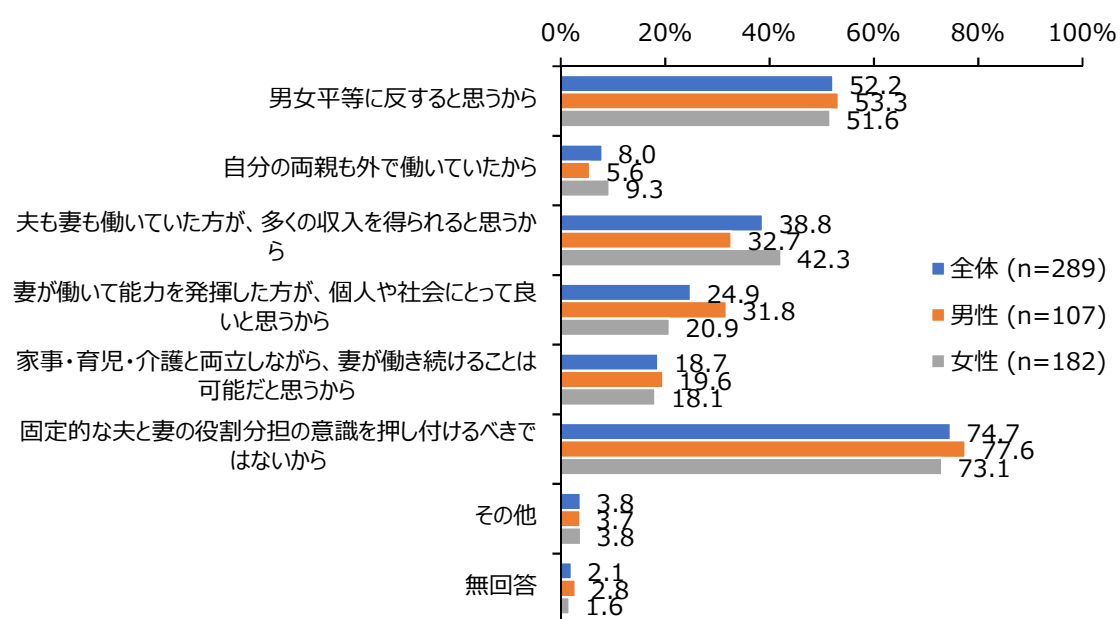
問 11-2 : 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対、どちらかといえば反対の理由 (MA)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対、どちらかといえば反対の理由については、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」と回答した割合が 74.7%と最も多く、次いで、「男女平等に反すると思うから」が 52.2%、「夫も妻も働いていた方が、多くの収入を得られると思うから」が 38.8%と続いている。



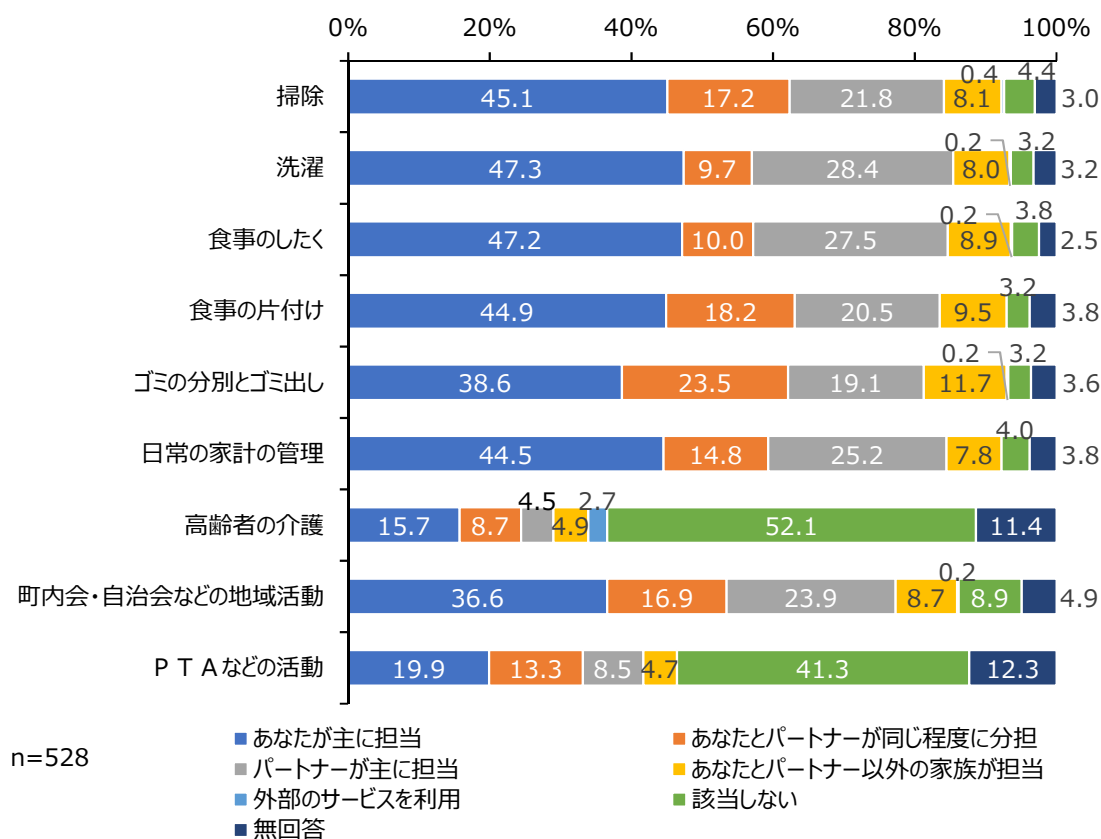
※問 11 で「どちらかといえば反対」「反対」と回答した方

(参考) 問 11-2 : 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対、どちらかといえば反対の理由 (MA) × 問 1 : 性別 (SA)



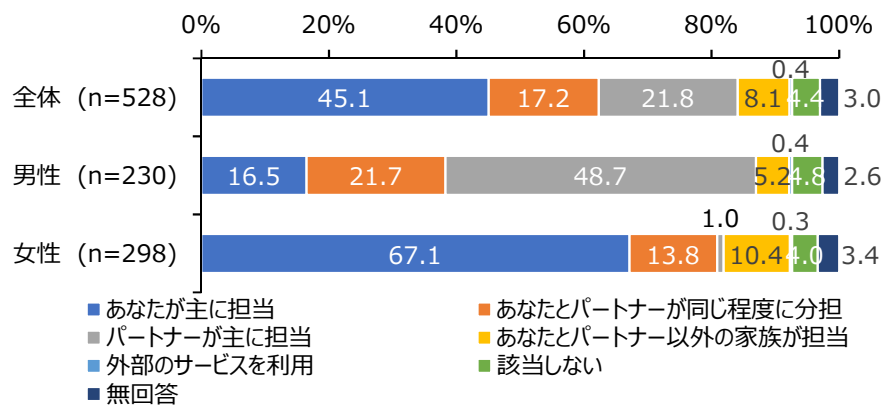
問 12：家庭において担当している人（SA）

* 家庭内の役割については、全体としては以下のとおりだが、回答者の性別によってどちらの姓が担当しているのか明らかとなるため、参考性別クロスを参照

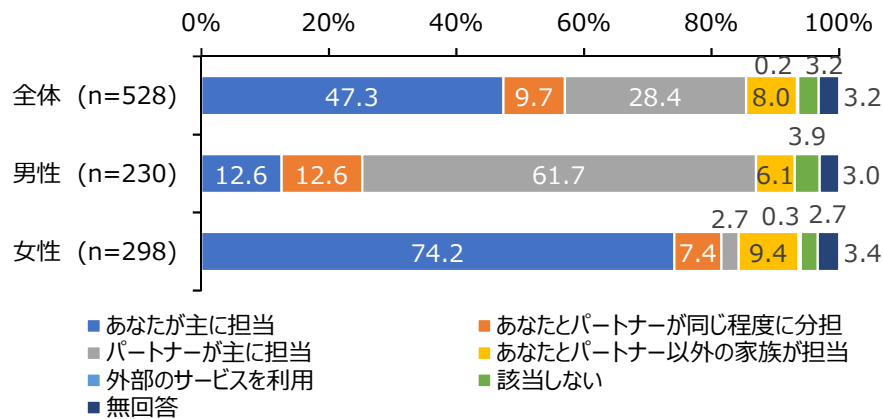


（参考）問 12：家庭において担当している人（SA） × 問 1：性別（SA）

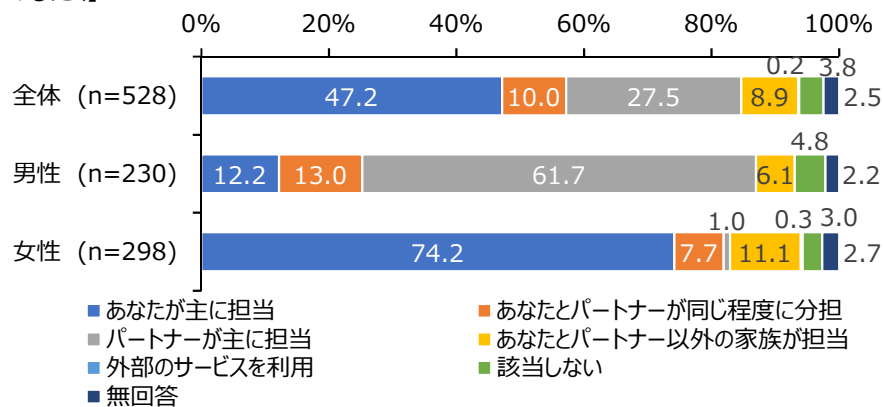
【掃除】



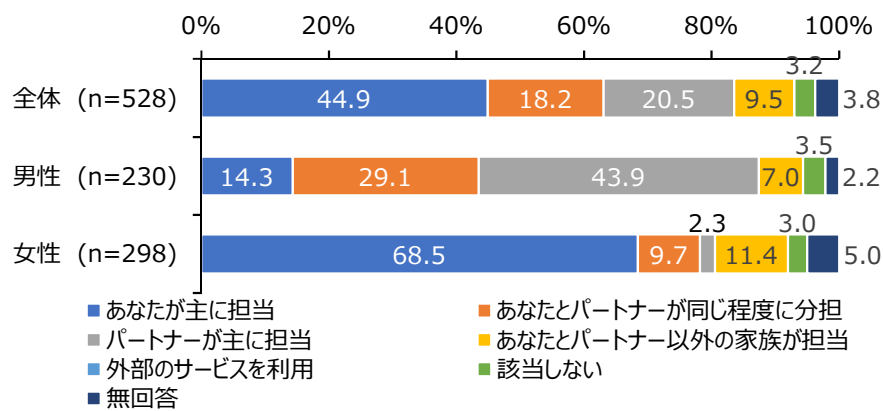
【洗濯】



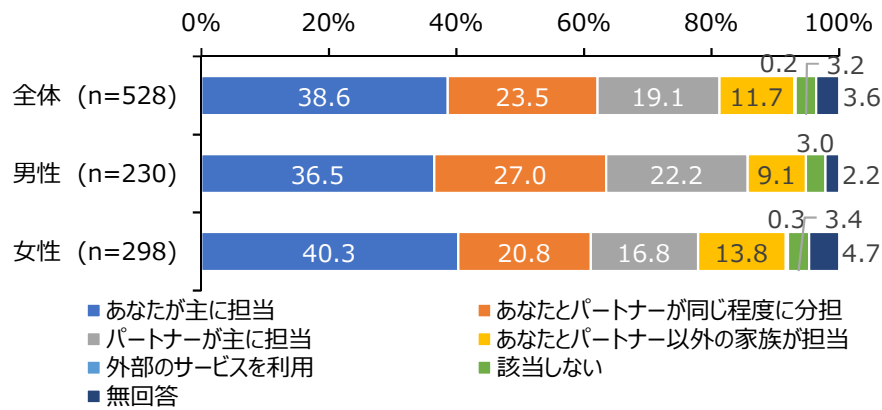
【食事のしたく】



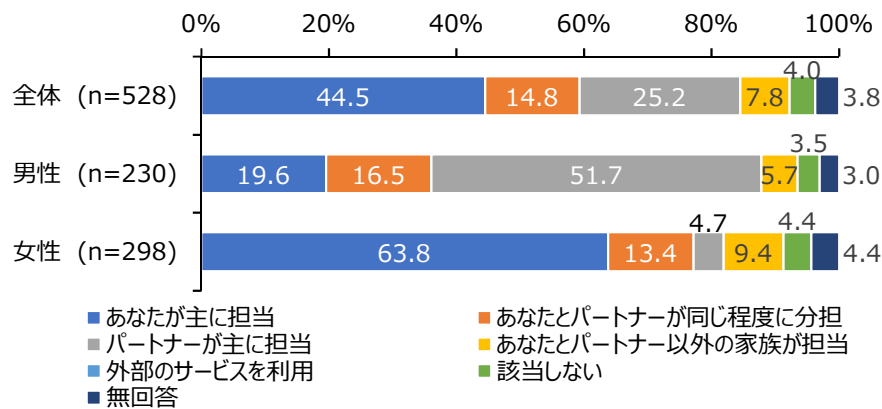
【食事の片づけ】



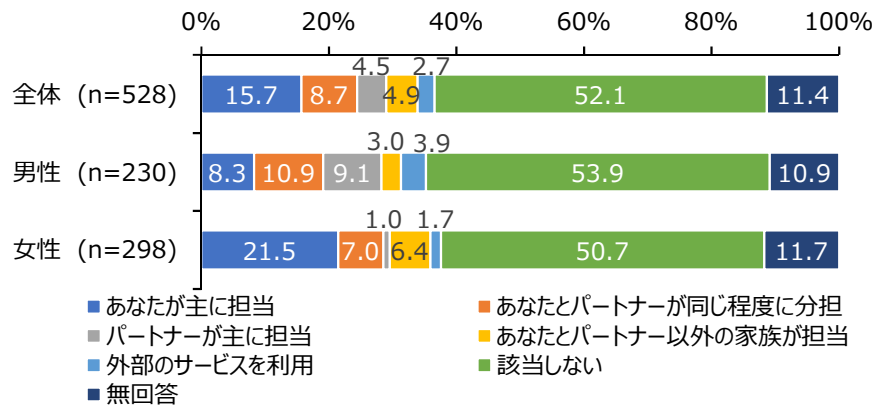
【ゴミの分別とゴミ出し】



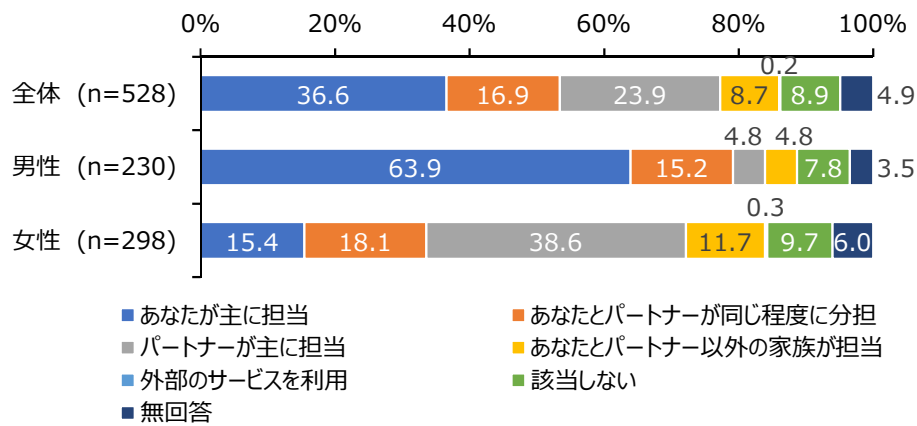
【日常の家計の管理】



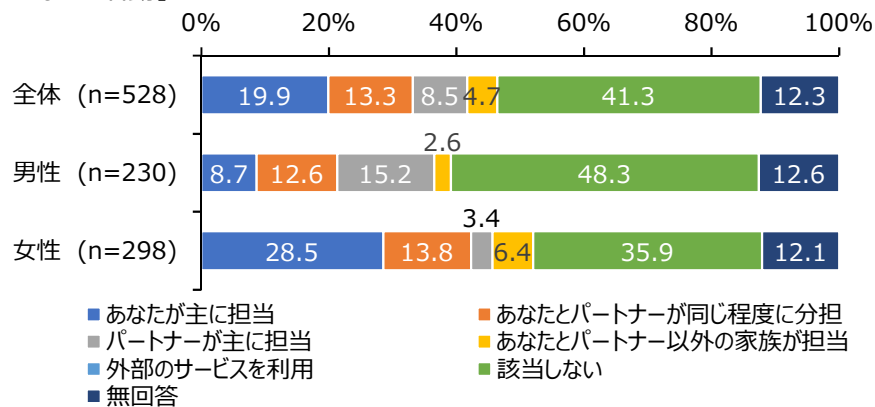
【高齢者の介護】



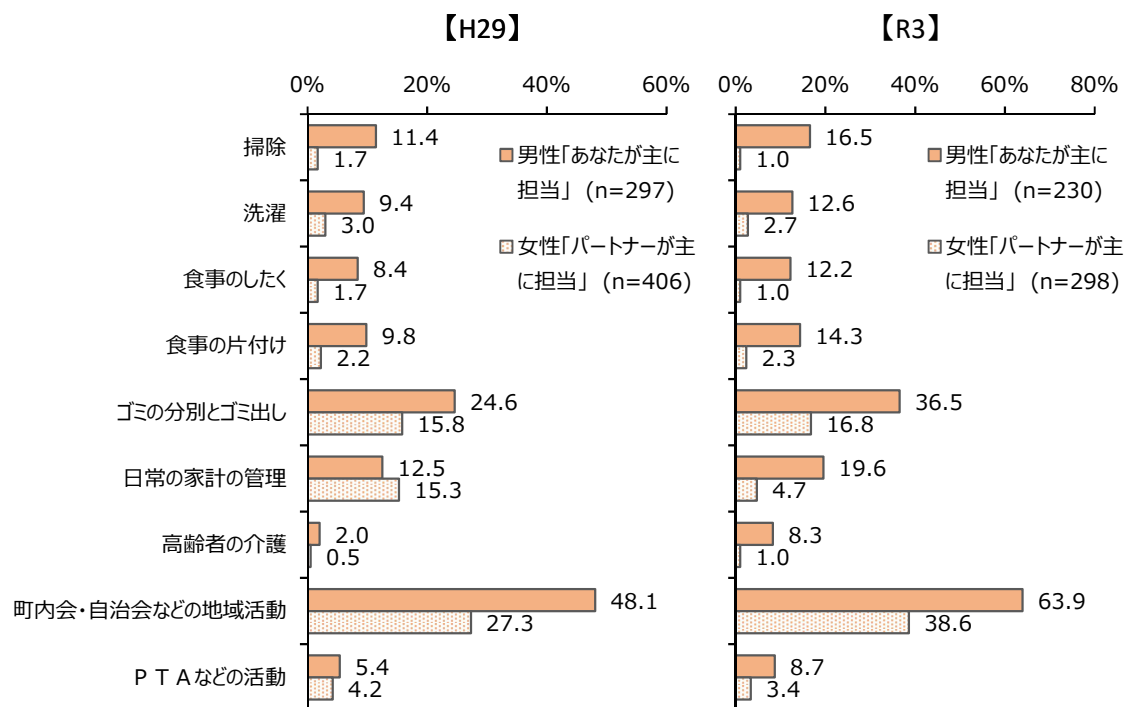
【町内会・自治会などの地域活動】



【PTAなどの活動】

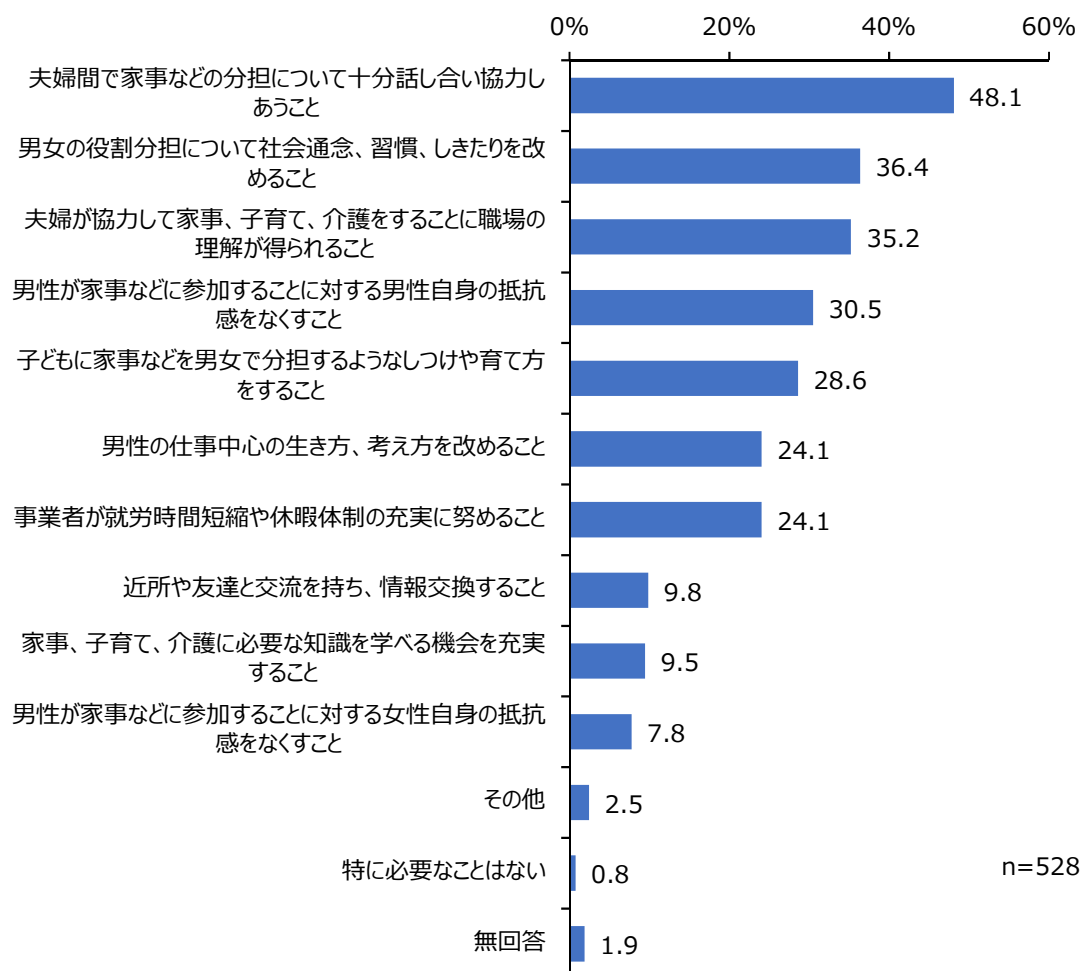


(参考) 問 12：家庭において担当している人 (SA) ■ 前回比較

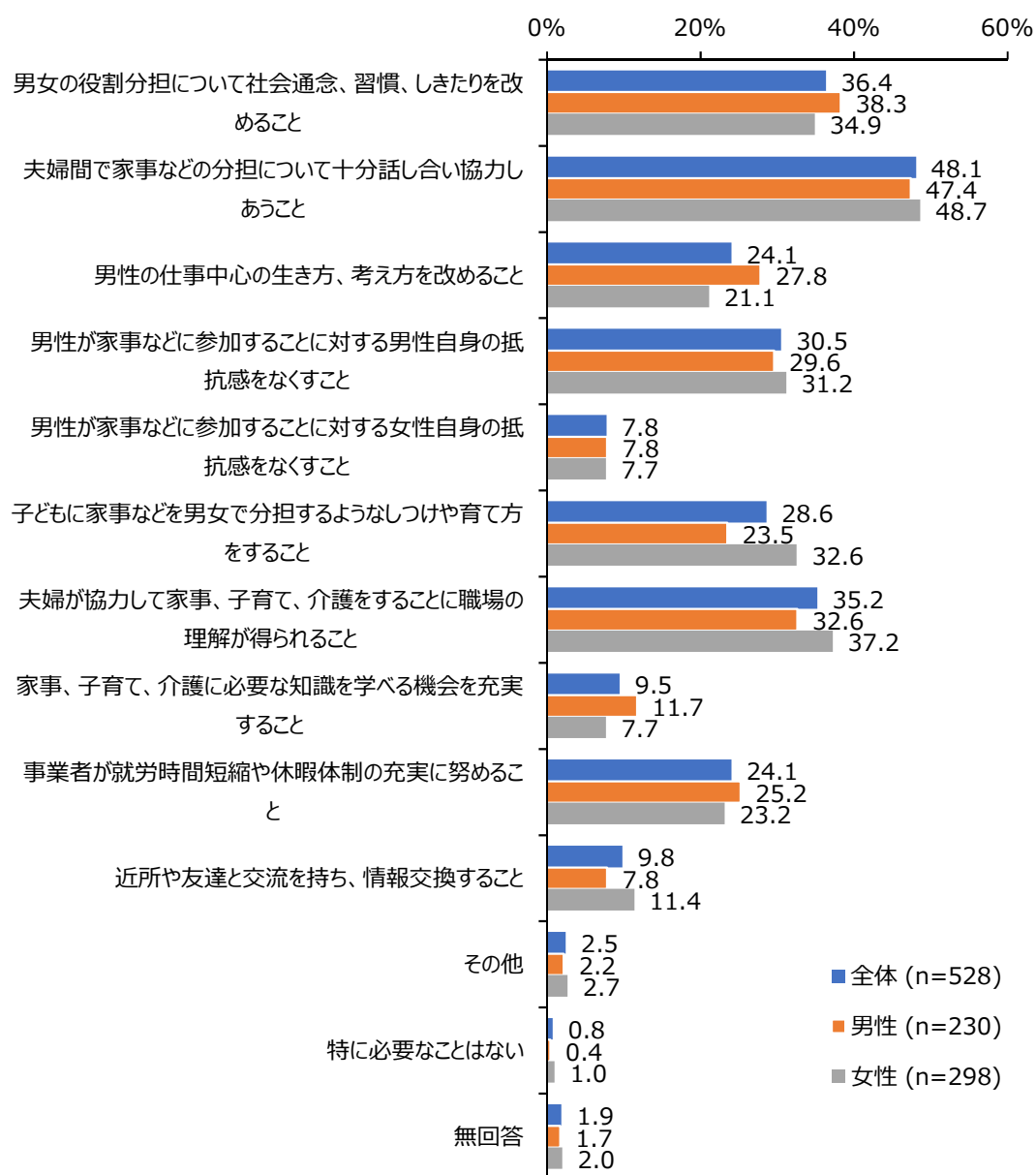


問 13：男性が家事・育児・介護に積極的に参加していくために必要だと思うこと（MA）

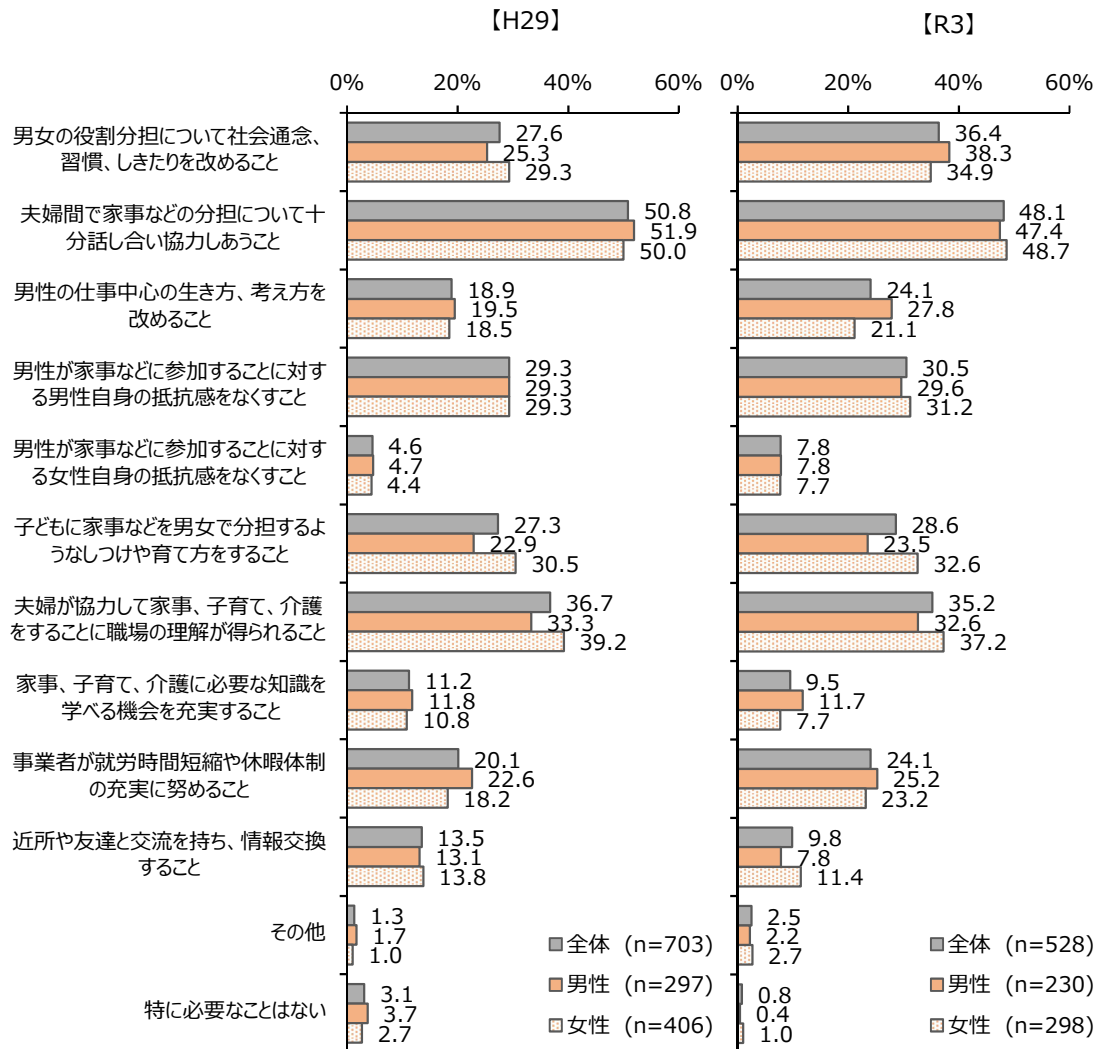
男性が家事・育児・介護に積極的に参加していくために必要だと思うことについては、「夫婦間で家事などの分担について十分話し合い協力しあうこと」と回答した割合が 48.1%と最も多く、次いで、「男女の役割分担について社会通念、習慣、しきたりを改めること」が 36.4%、「夫婦が協力して家事、子育て、介護をすることに職場の理解が得られること」が 35.2%と続いている。



(参考) 問 13 : 男性が家事・育児・介護に積極的に参加していくために必要だと思うこと (MA) × 問 1 : 性別 (SA)

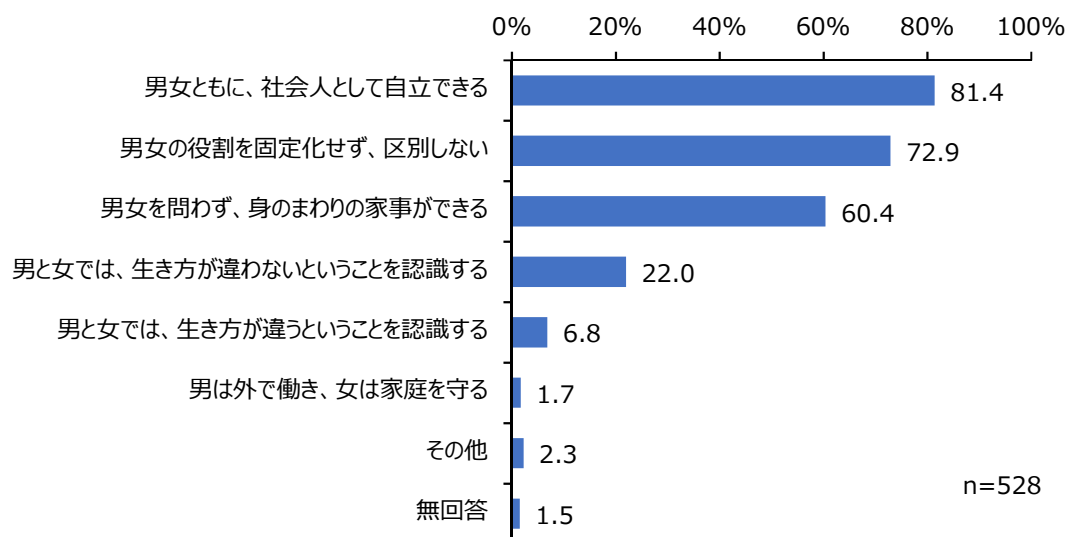


(参考) 問 13 : 男性が家事・育児・介護に積極的に参加していくために必要だと思うこと (MA) ■ 前回比較

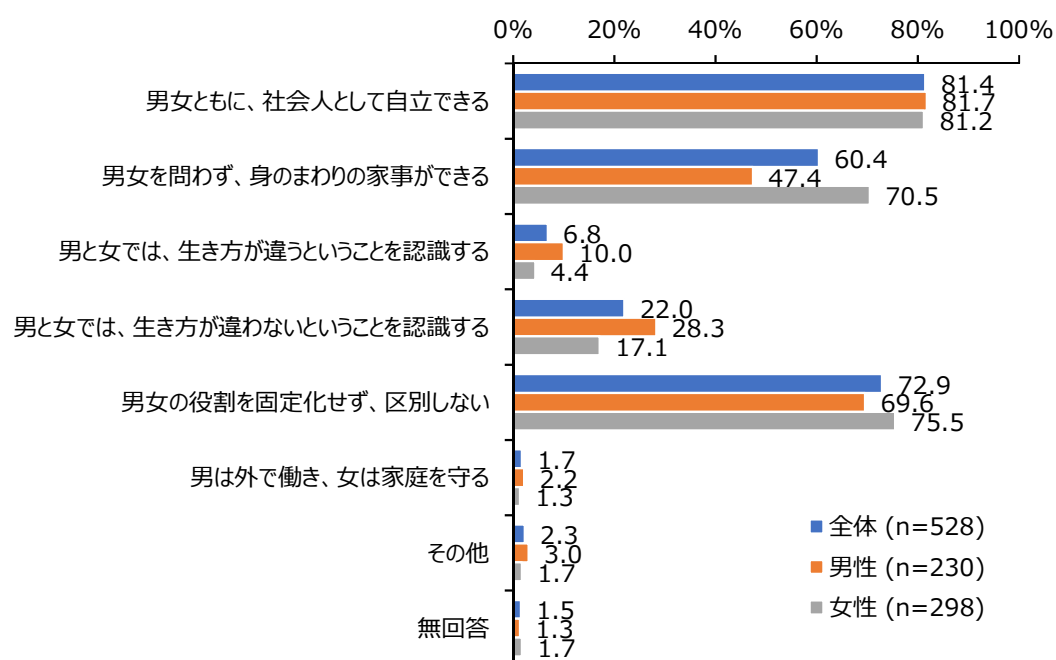


問 14：地域で暮らす子供たちが、社会の一員としてどのように育ってほしいと思うか（MA）

地域で暮らす子供たちが、社会の一員としてどのように育ってほしいと思うかについては、「男女ともに、社会人として自立できる」と回答した割合が 81.4%と最も多く、次いで、「男女の役割を固定化せず、区別しない」が 72.9%、「男女を問わず、身のまわりの家事ができる」が 60.4%と続いている。



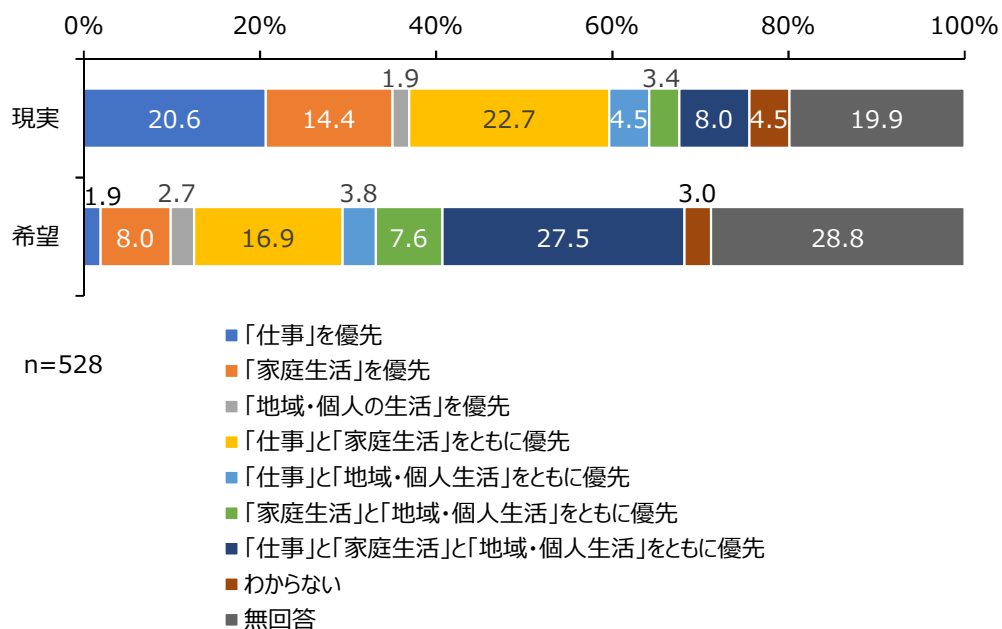
（参考）問 14：地域で暮らす子供たちが、社会の一員としてどのように育ってほしいと思うか（MA） ×問 1：性別（SA）



ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

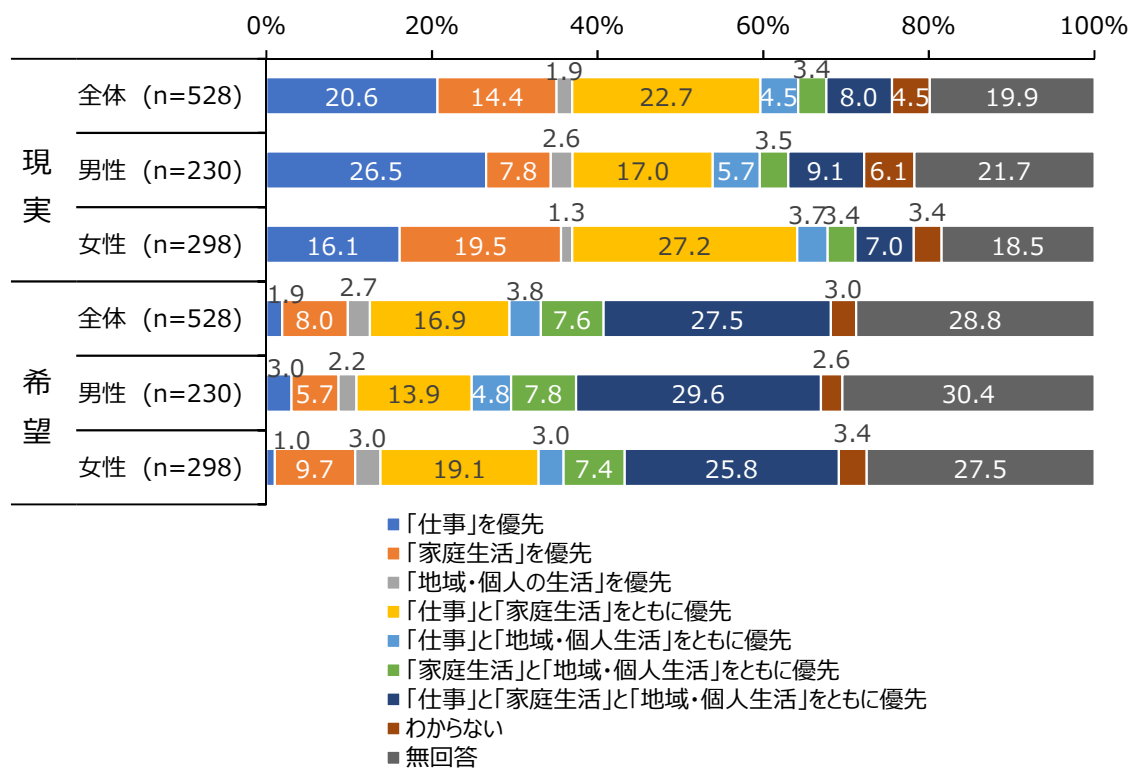
問 15(1)(2)：生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について（SA）

生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度については、現実には『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』と回答した割合が22.7%と最も多く、次いで、「仕事」と回答した割合が20.6%となっている。一方、希望は、無回答を除き、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人生活」をともに優先』と回答した割合が27.5%と最も多く、次いで、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が16.9%となっている。



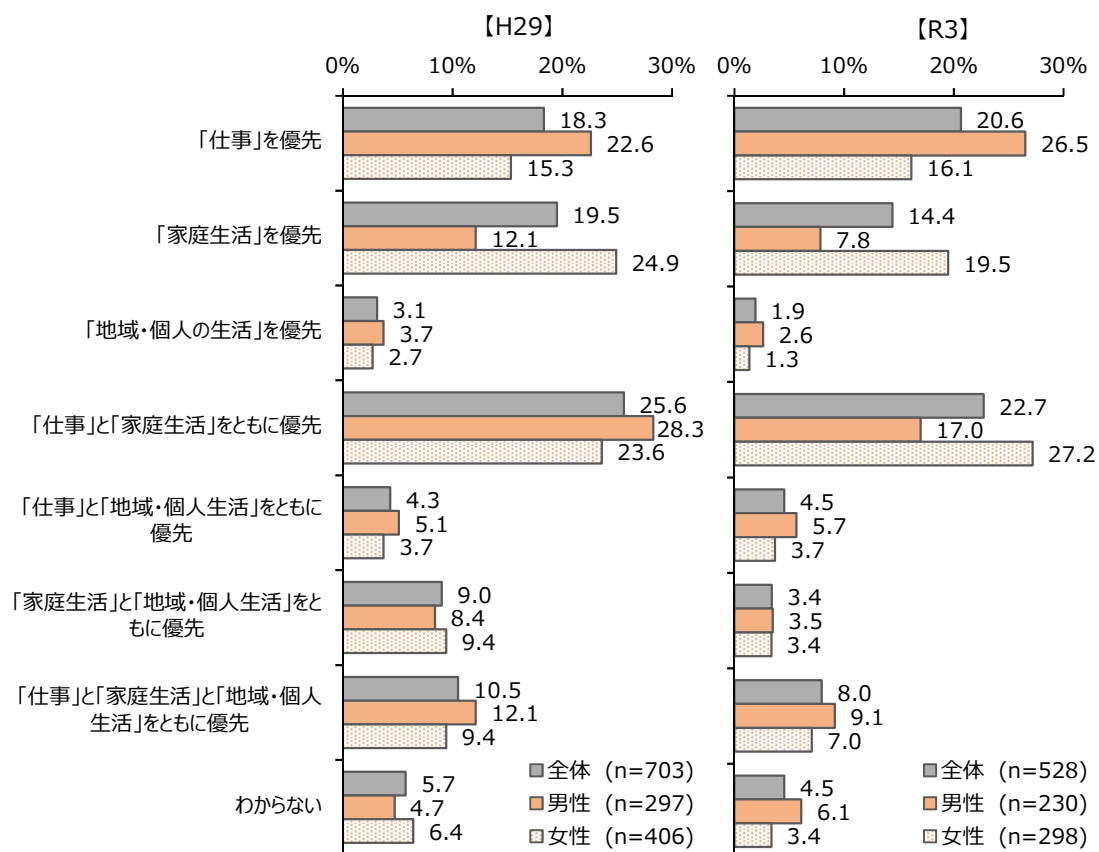
* この設問では、以下の記入が多く、無回答扱いの割合が多くなっている。
（現実と希望の区別がなく記載。一つだけ回答する設問だが、複数回答）

(参考) 問 15(1)(2) : 生活の中での、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について
(SA) × 問 1 : 性別 (SA)

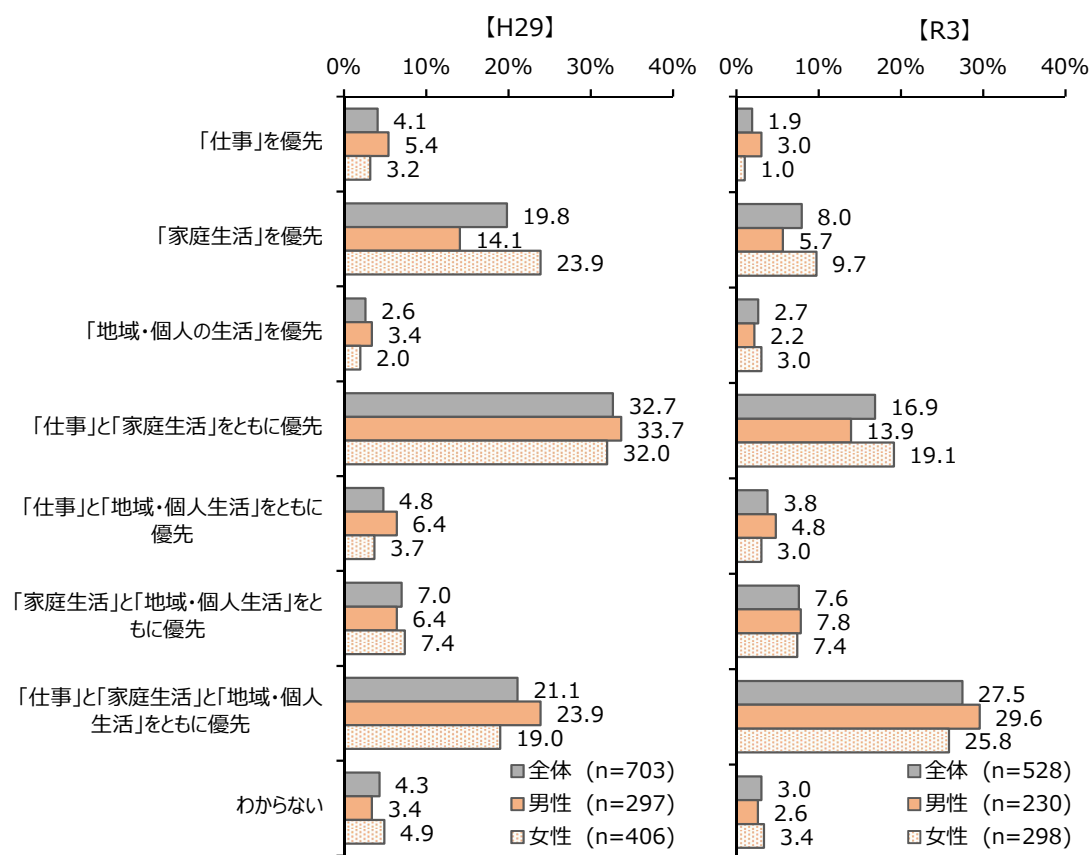


(参考) 問 15(1)(2) : 生活の中の、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について
(SA) ■ 前回比較

【現実】



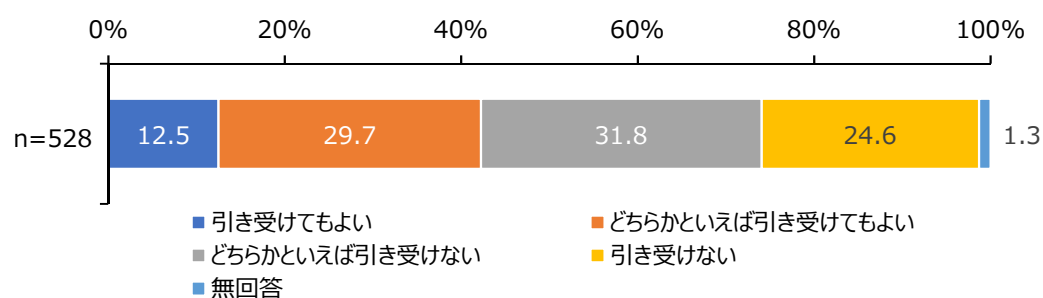
【希望】



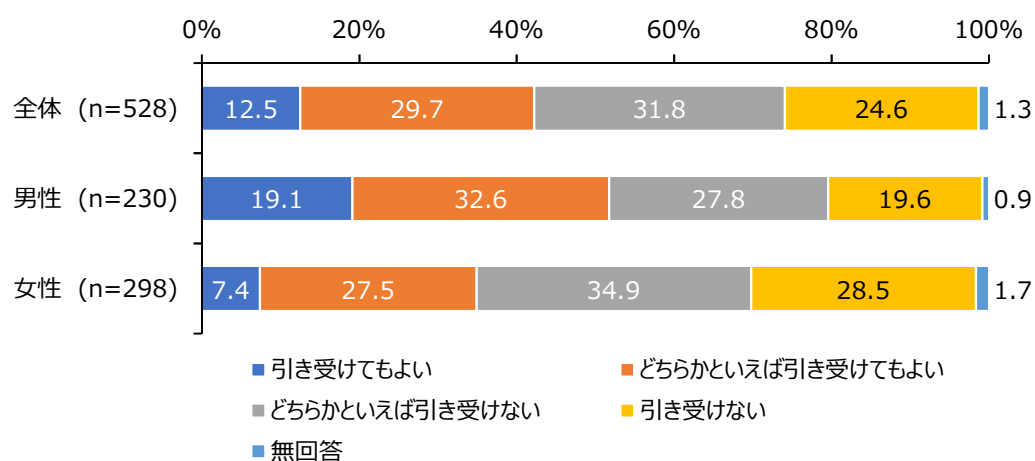
社会参画について

問 16：地域の自治会や PTA 等の代表に選ばれる機会があったらどうするか（SA）

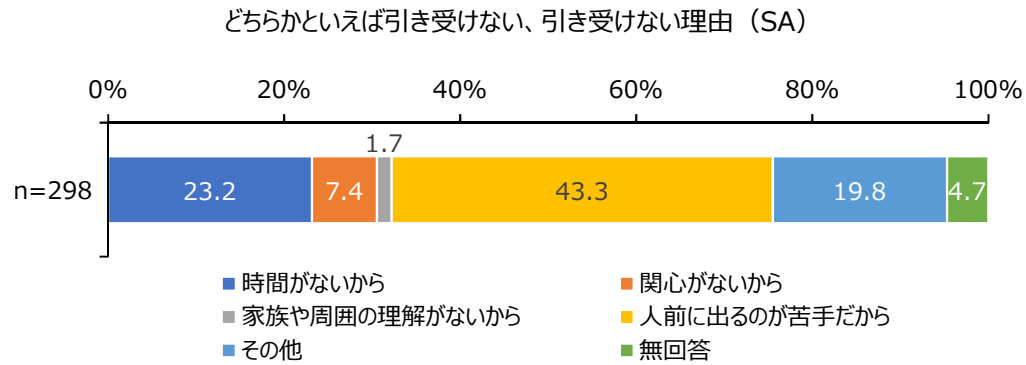
地域の自治会や PTA 等の代表に選ばれる機会があったらどうするかについては、「どちらかといえば引き受けない」と回答した割合が 31.8%と最も多く、次いで、「どちらかといえば引き受けてもよい」が 29.7%、「引き受けない」が 24.6%と続いている。



（参考）問 16：地域の自治会や PTA 等の代表に選ばれる機会があったらどうするか（SA）×問 1：性別（SA）

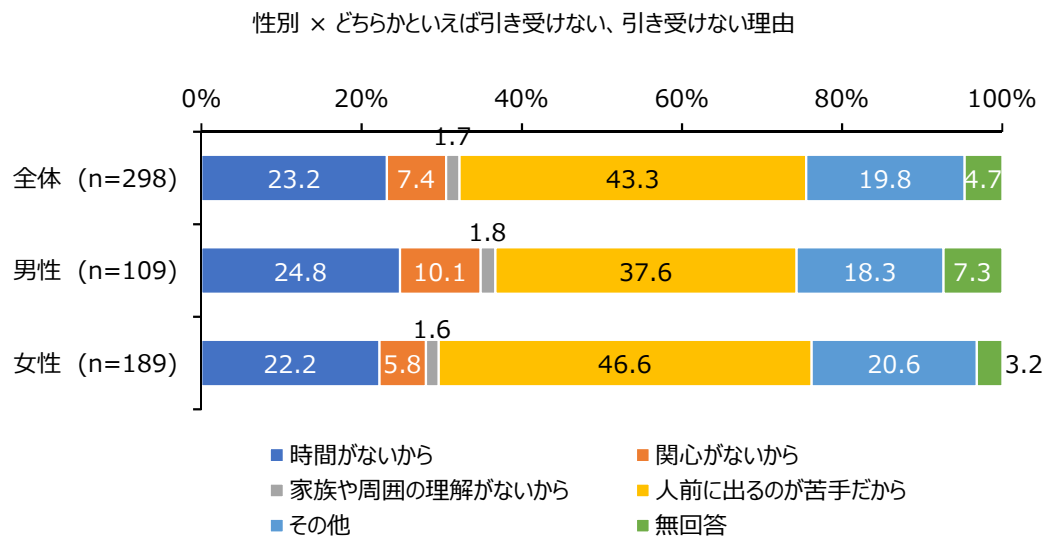


問 16-1：どちらかといえば引き受けない、引き受けない理由（SA）



※問 16 で「どちらかといえば引き受けない」「引き受けない」と回答した方

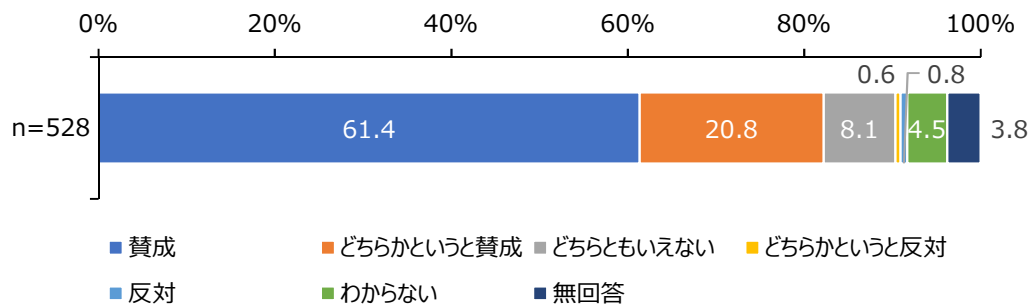
（参考）問 16-1：どちらかといえば引き受けない、引き受けない理由（SA）×問 1：性別（SA）



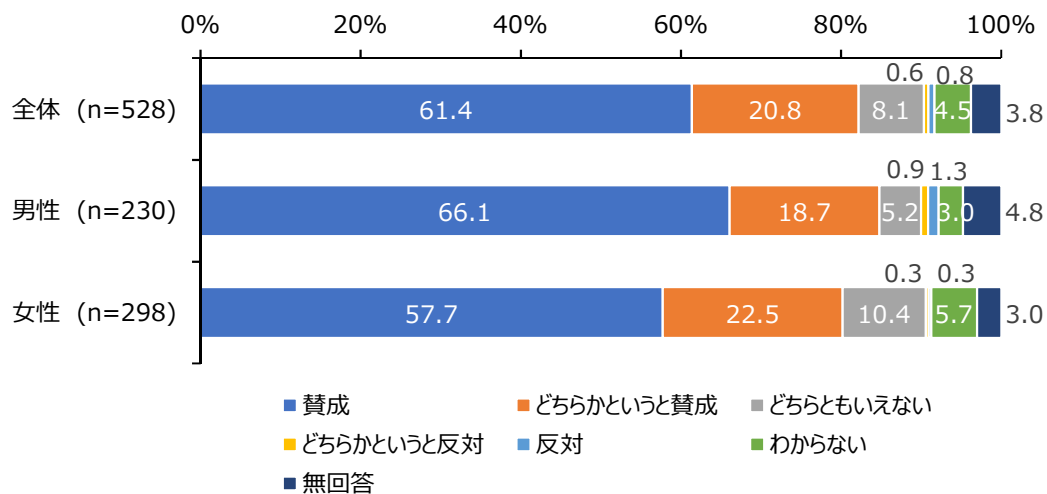
女性の活躍について

問 17：女性が地域の自治会やP T A等の代表、議員や審議会委員など、方針決定の場に参画することについて、どう思うか（SA）

女性が地域の自治会やP T A等の代表、議員や審議会委員など、方針決定の場に参画することについて、どう思うかについては、「賛成」と回答した割合が 61.4%と最も多く、次いで、「どちらかという賛成」が 20.8%と続いている。

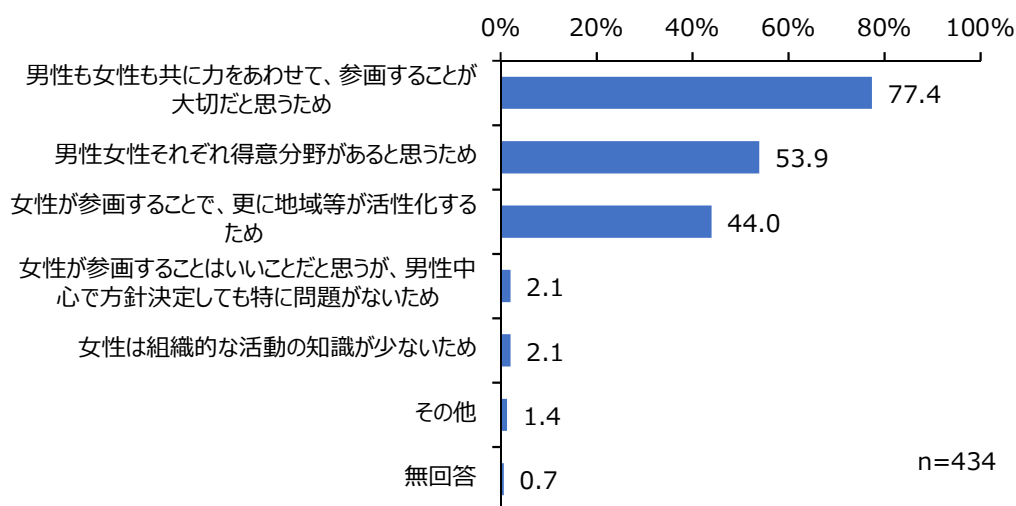


（参考）問 17：女性が地域の自治会やP T A等の代表、議員や審議会委員など、方針決定の場に参画することについて、どう思うか（SA） × 問 1：性別（SA）



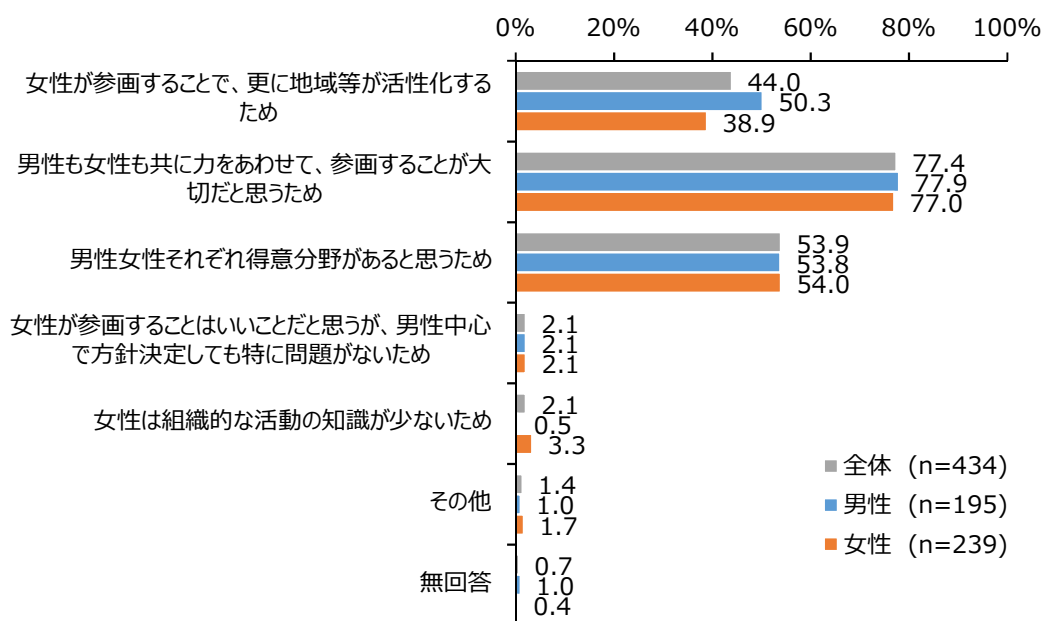
問 17-1 (a) : 女性が方針決定の場に参画することに賛成する理由 (MA)

女性が方針決定の場に参画することに賛成する理由については、「男性も女性も共に力をあわせて、参画することが大切だと思うため」と回答した割合が 77.4%と最も多く、次いで、「男性女性それぞれ得意分野があると思うため」が 53.9%、「女性が参画することで、更に地域等が活性化するため」が 44.0%と続いている。



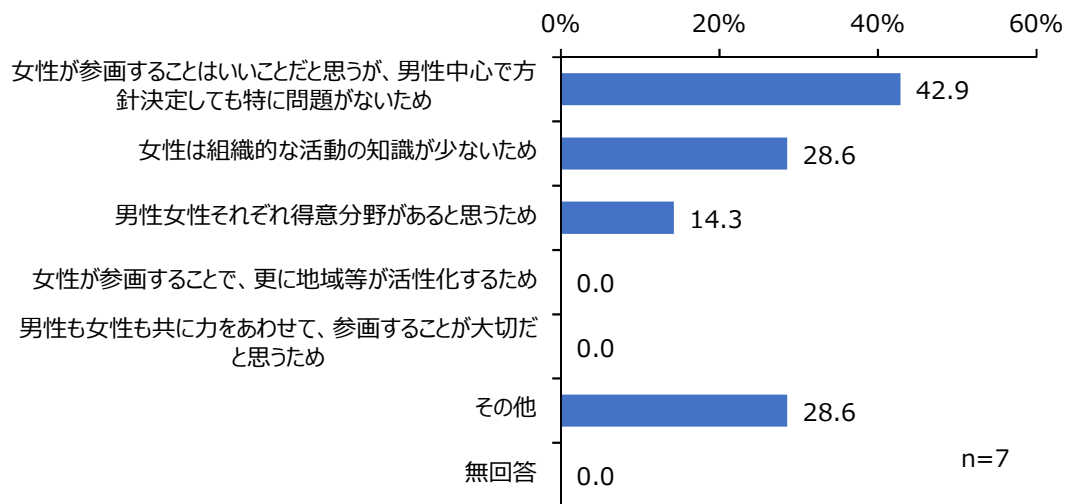
※問 17 で「賛成」「どちらかという賛成」と回答した方

(参考) 問 17-1 (a) : 女性が方針決定の場に参画することに賛成する理由 (MA) × 問 1 : 性別 (SA)



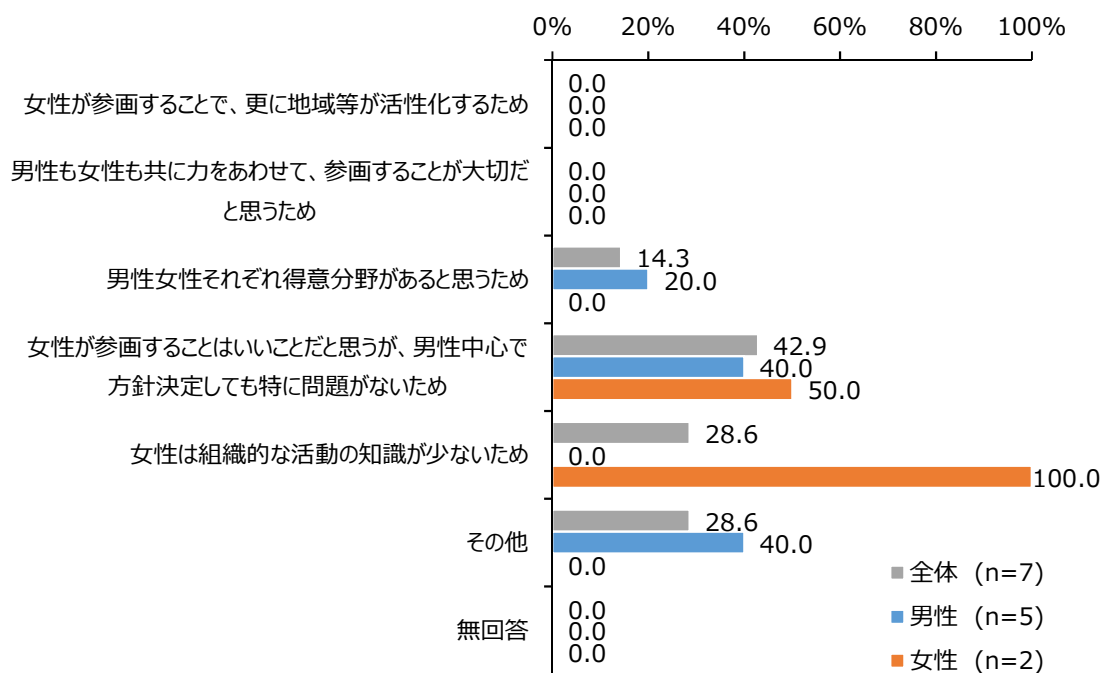
問 17-1 (b) : 女性が方針決定の場に参画することに反対する理由 (MA)

女性が方針決定の場に参画することに反対する理由については、「女性が参画することはいいことだと思うが、男性中心で方針決定しても特に問題がないため」と回答した割合が 42.9%と最も多く、次いで、「女性は組織的な活動の知識が少ないため」が 28.6%と続いている。



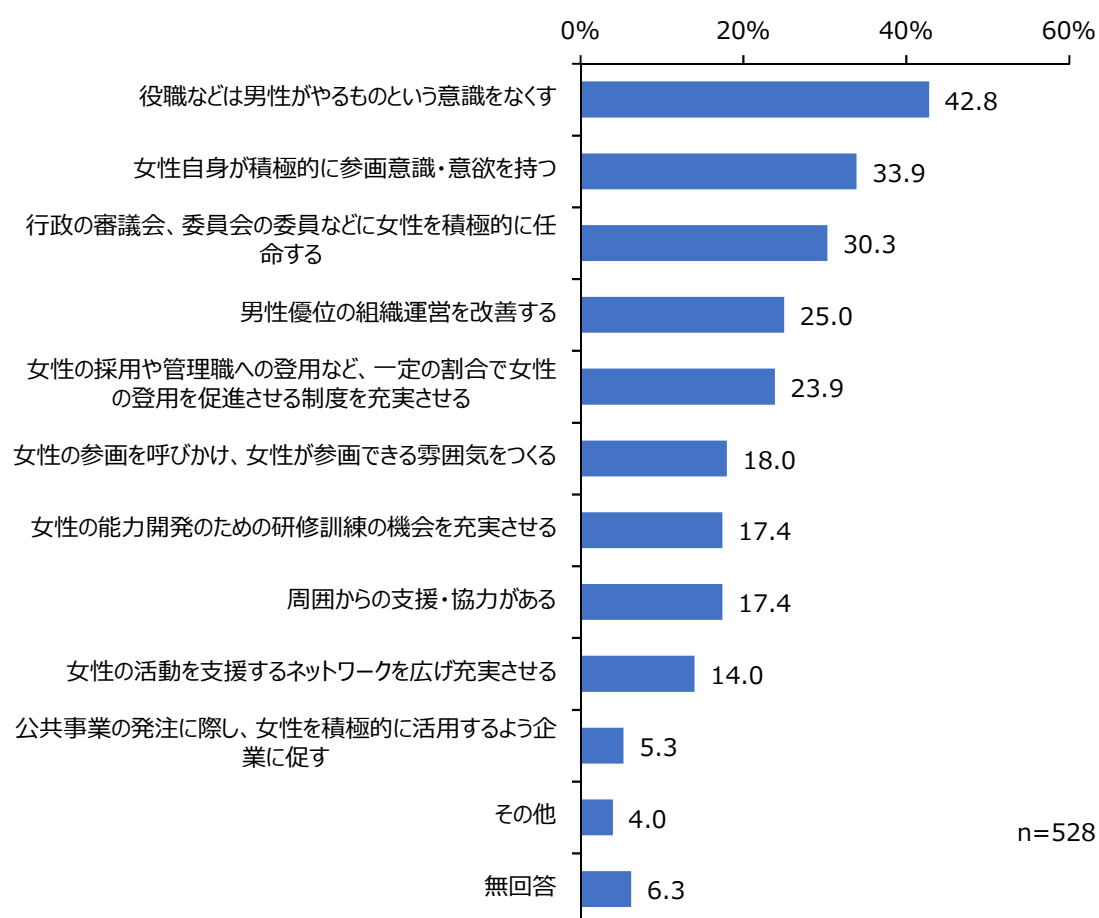
※問 17 で「反対」「どちらかという反対」と回答した方

(参考) 問 17-1 (b) : 女性が方針決定の場に参画することに反対する理由 (MA) × 問 1 : 性別 (SA)

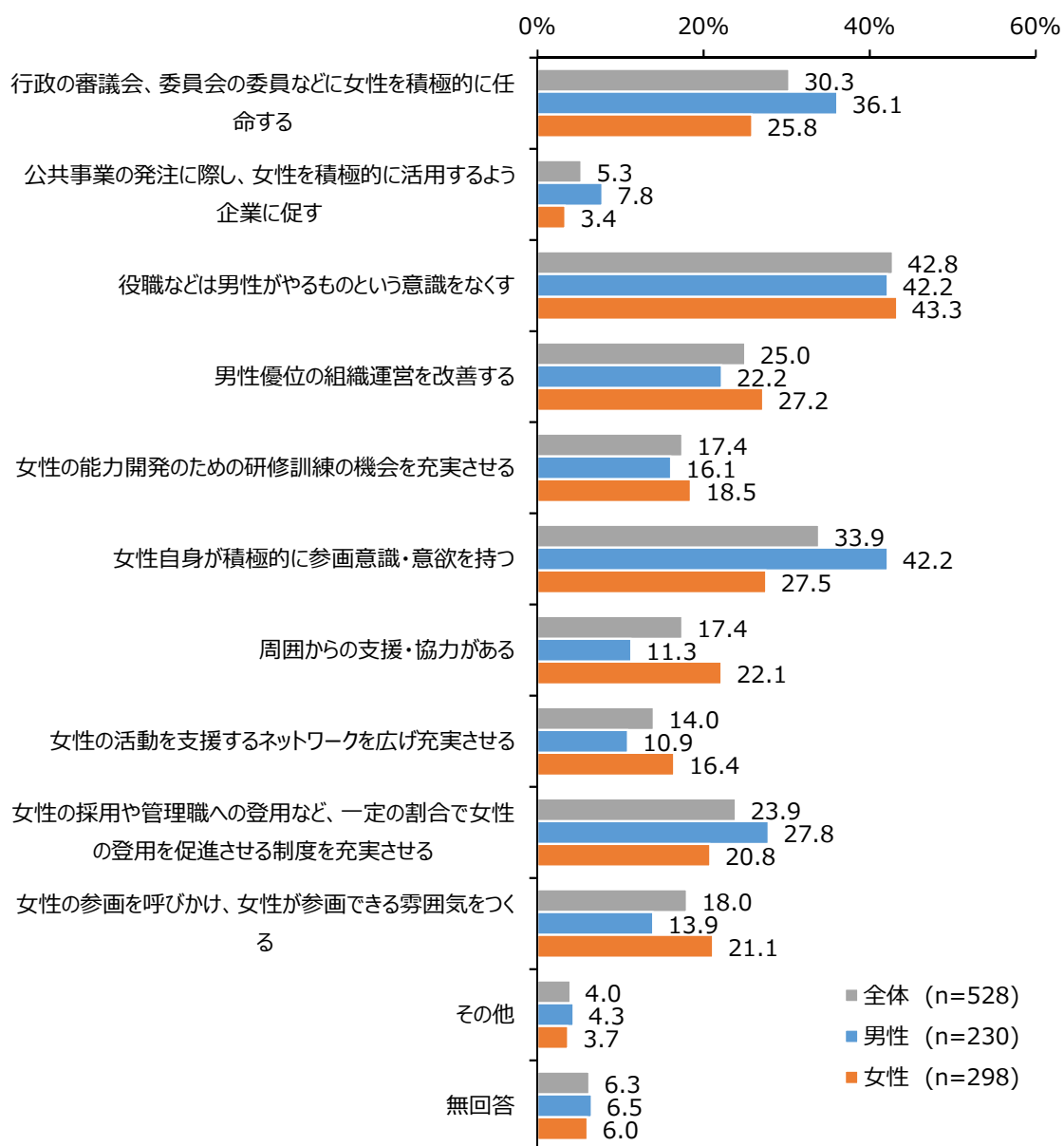


問 18：女性の参画が、行政や企業、地域の自治会やP T A等の代表、議員や審議会委員など、方針決定の場が増えていくために必要だと思うこと（MA）

女性の参画が、行政や企業、地域の自治会やP T A等の代表、議員や審議会委員など、方針決定の場が増えていくために必要だと思うことについては、「役職などは男性がやるものという意識をなくす」と回答した割合が42.8%と最も多く、次いで、「女性自身が積極的に参画意識・意欲を持つ」が33.9%、「行政の審議会、委員会の委員などに女性を積極的に任命する」が30.3%と続いている。



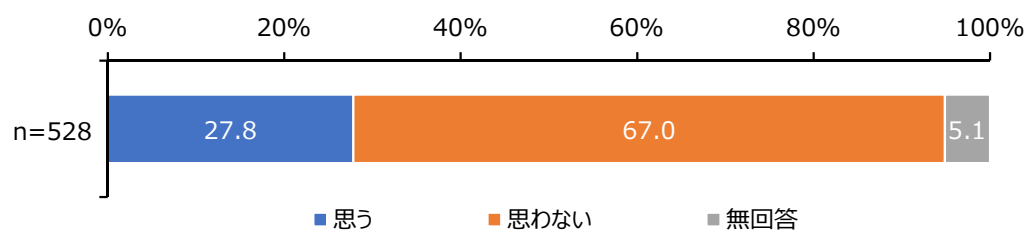
(参考) 問 18 : 女性の参画が、行政や企業、地域の自治会やPTA等の代表、議員や審議会委員など、方針決定の場に増えていくために必要だと思うこと (MA) × 問 1 : 性別 (SA)



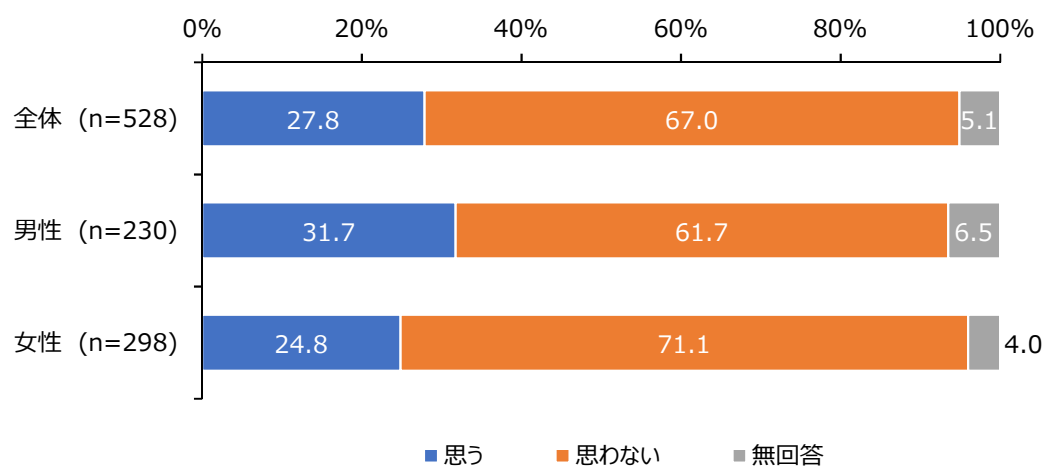
旧姓の使用について

問 19：結婚して戸籍上の名字が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思うか（SA）

結婚して戸籍上の名字が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思うかについては、「思わない」と回答した割合が 67.0%と最も多く、「思う」は 27.8%であった。

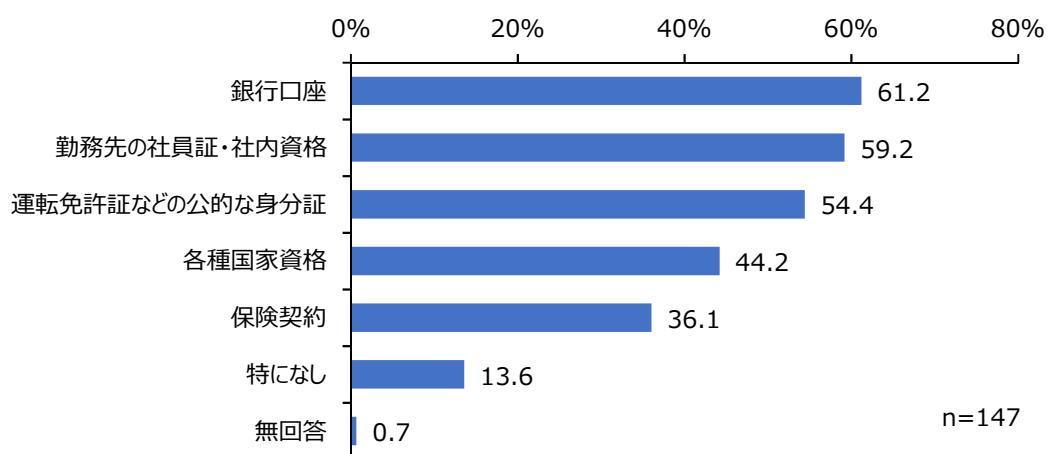


（参考）問 19：結婚して戸籍上の名字が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思うか（SA）×問 1：性別（SA）



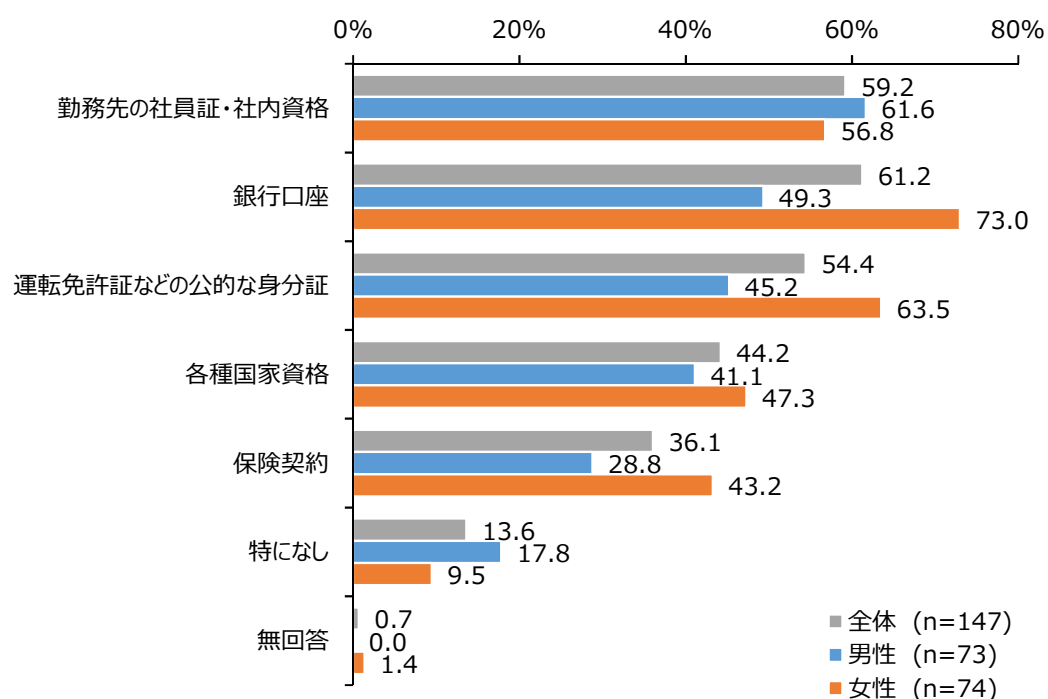
問 19-1：旧姓を通称として使用するとき、どのようなものに旧姓が使用できると良いと思うか（MA）

旧姓を通称として使用するとき、どのようなものに旧姓が使用できると良いと思うかについては、「銀行口座」と回答した割合が 61.2%と最も多く、次いで「勤務先の社員証・社内資格」が 59.2%、「運転免許証などの公的な身分証」が 54.4%であった。



※問 19 で「思う」と回答した方

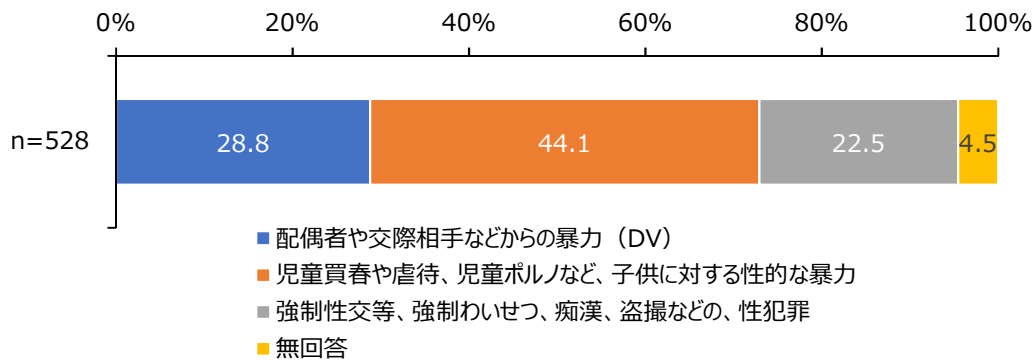
（参考）問 19-1：旧姓を通称として使用するとき、どのようなものに旧姓が使用できると良いと思うか（MA）×問 1：性別（SA）



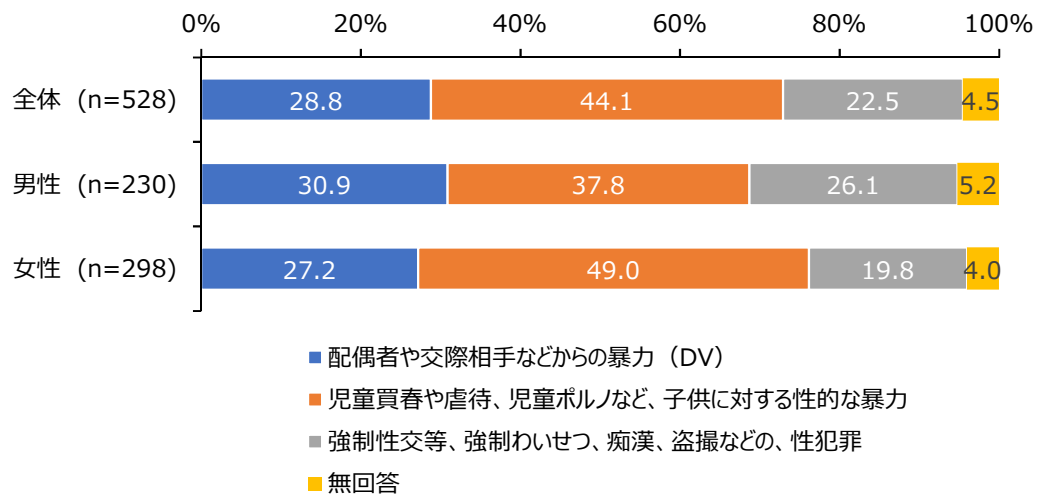
女性に対する暴力等について

問 20：最も必要だと考える暴力への対策（SA）

最も必要だと考える暴力への対策については、「児童買春や虐待、児童ポルノなど、子供に対する性的な暴力」と回答した割合が 44.1%と最も多く、次いで、「配偶者や交際相手などからの暴力（DV）」が 28.8%、「強制的性交等、強制わいせつ、痴漢、盗撮などの、性犯罪」が 22.5%と続いている。

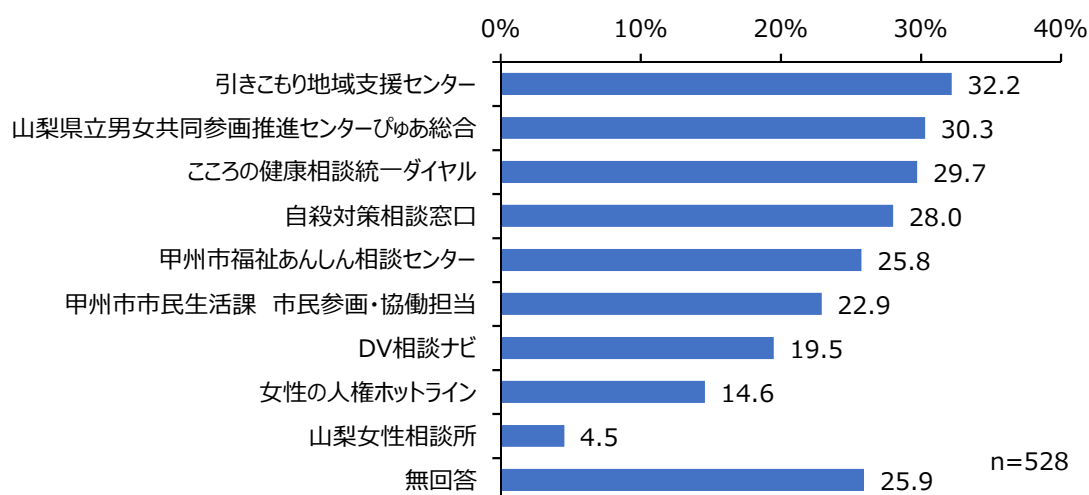


（参考）問 20：最も必要だと考える暴力への対策（SA）×問 1：性別（SA）

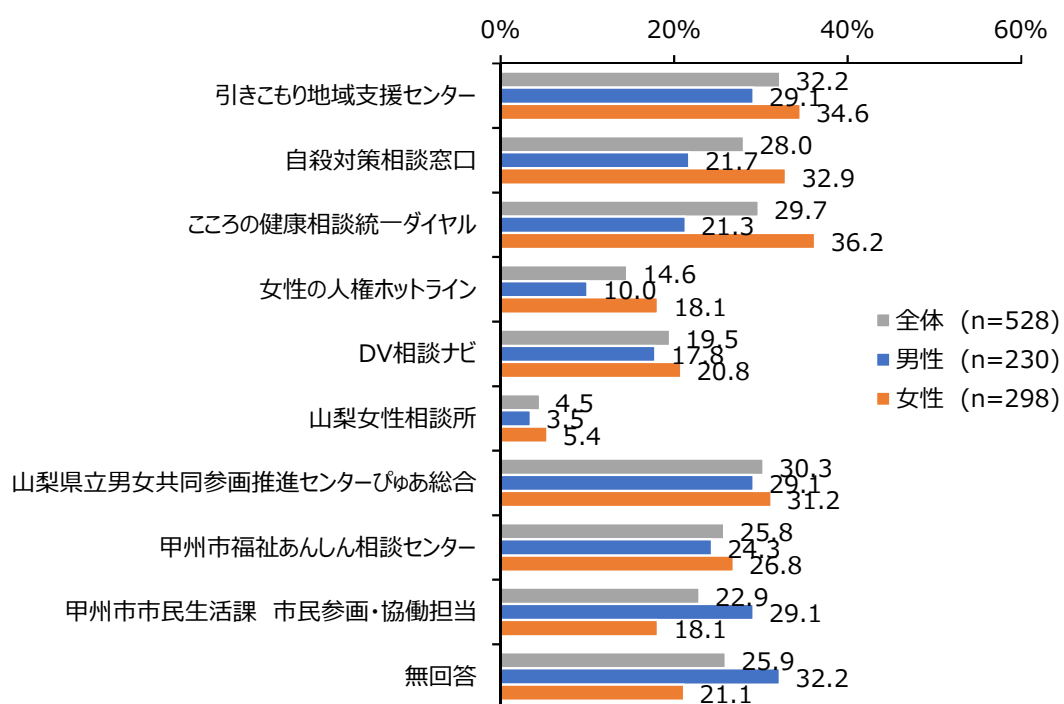


問 21：国・県及び甲州市が設置している女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、知っているもの（MA）

国・県及び甲州市が設置している女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、知っているものについては、「引きこもり地域支援センター」と回答した割合が 32.2%と最も多く、次いで、「山梨県立男女共同参画推進センターびゅう総合」が 30.3%、「こころの健康相談統一ダイヤル」が 29.7%と続いている。

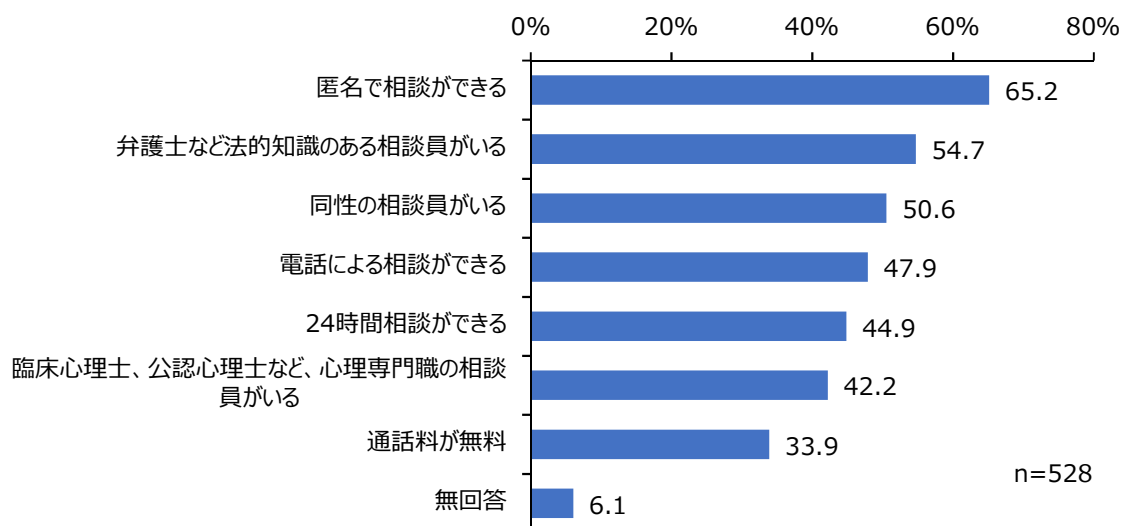


（参考）問 21：国・県及び甲州市が設置している女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、知っているもの（MA）×問 1：性別（SA）

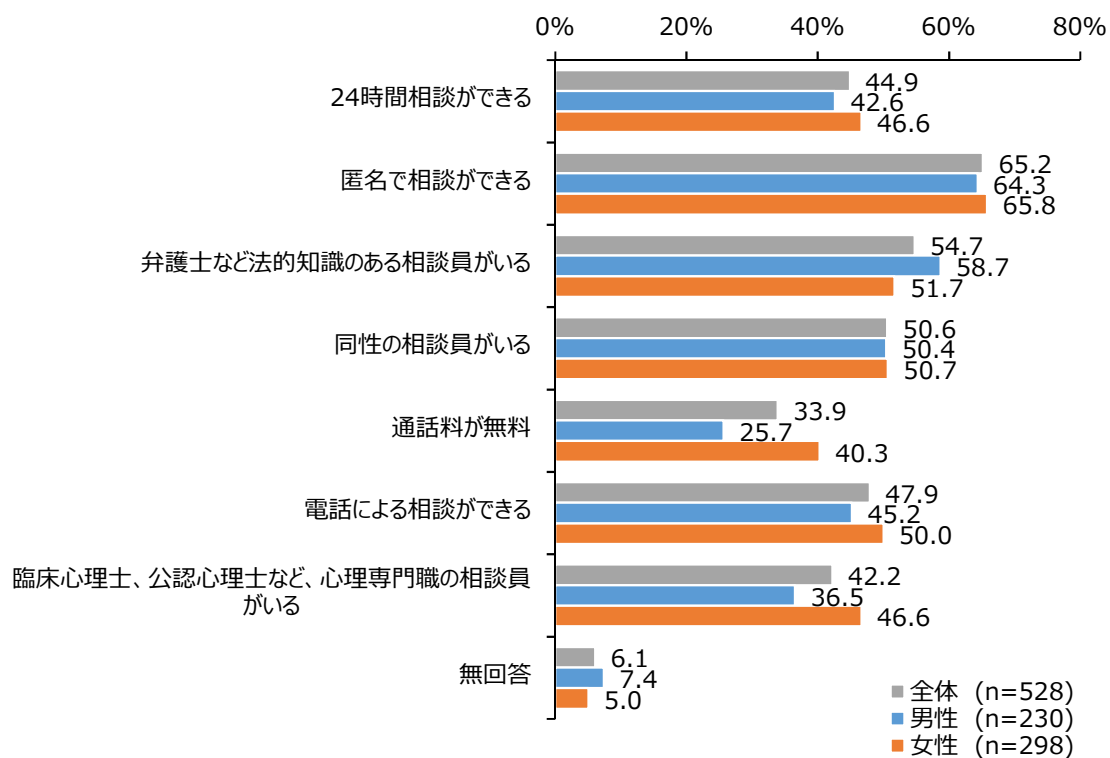


問 22：女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うこと（MA）

女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことについては、「匿名で相談ができる」と回答した割合が 65.2%と最も多く、次いで、「弁護士など法的知識のある相談員がいる」が 54.7%、「同性の相談員がいる」が 50.6%と続いている。



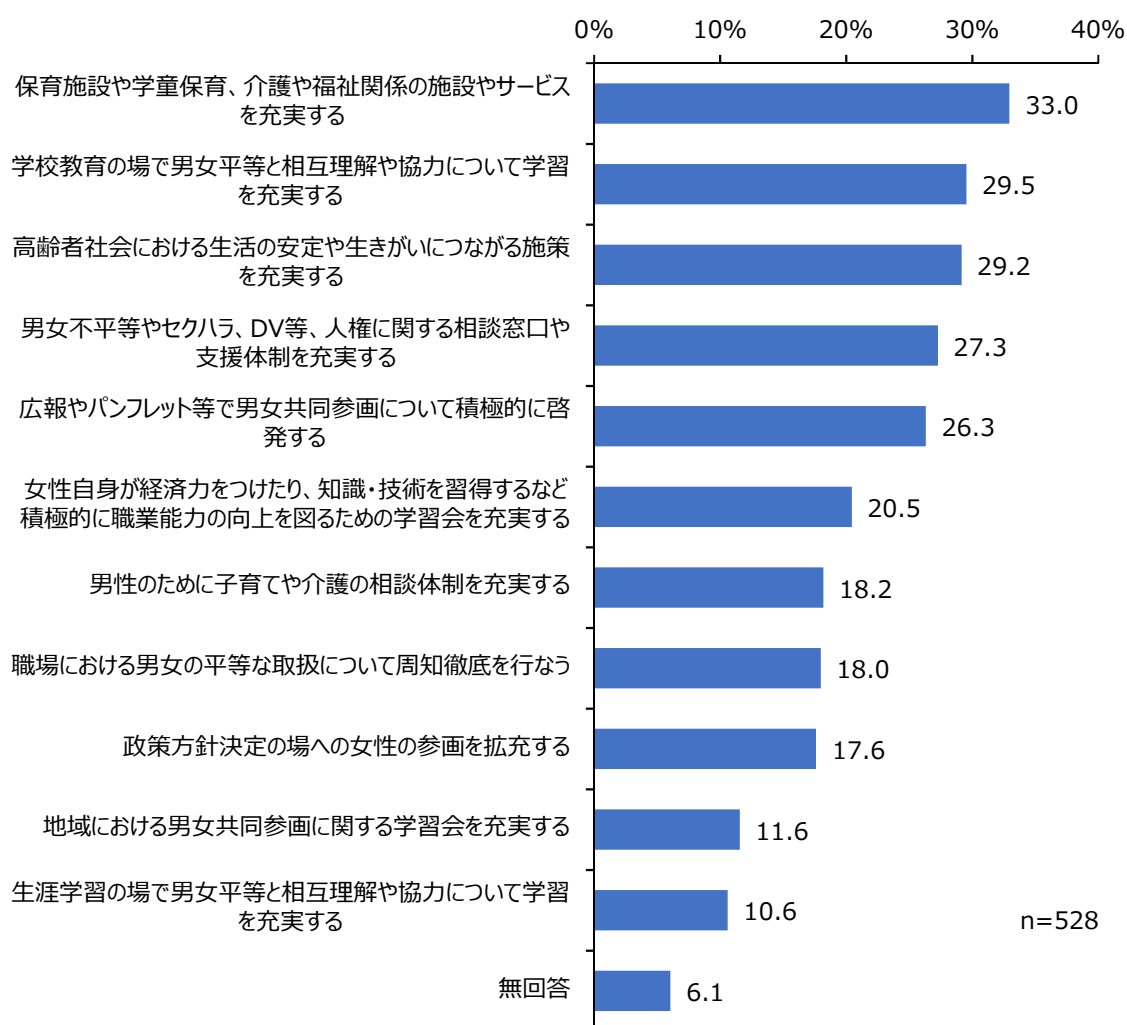
（参考）問 22：女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うこと（MA）×問 1：性別（SA）



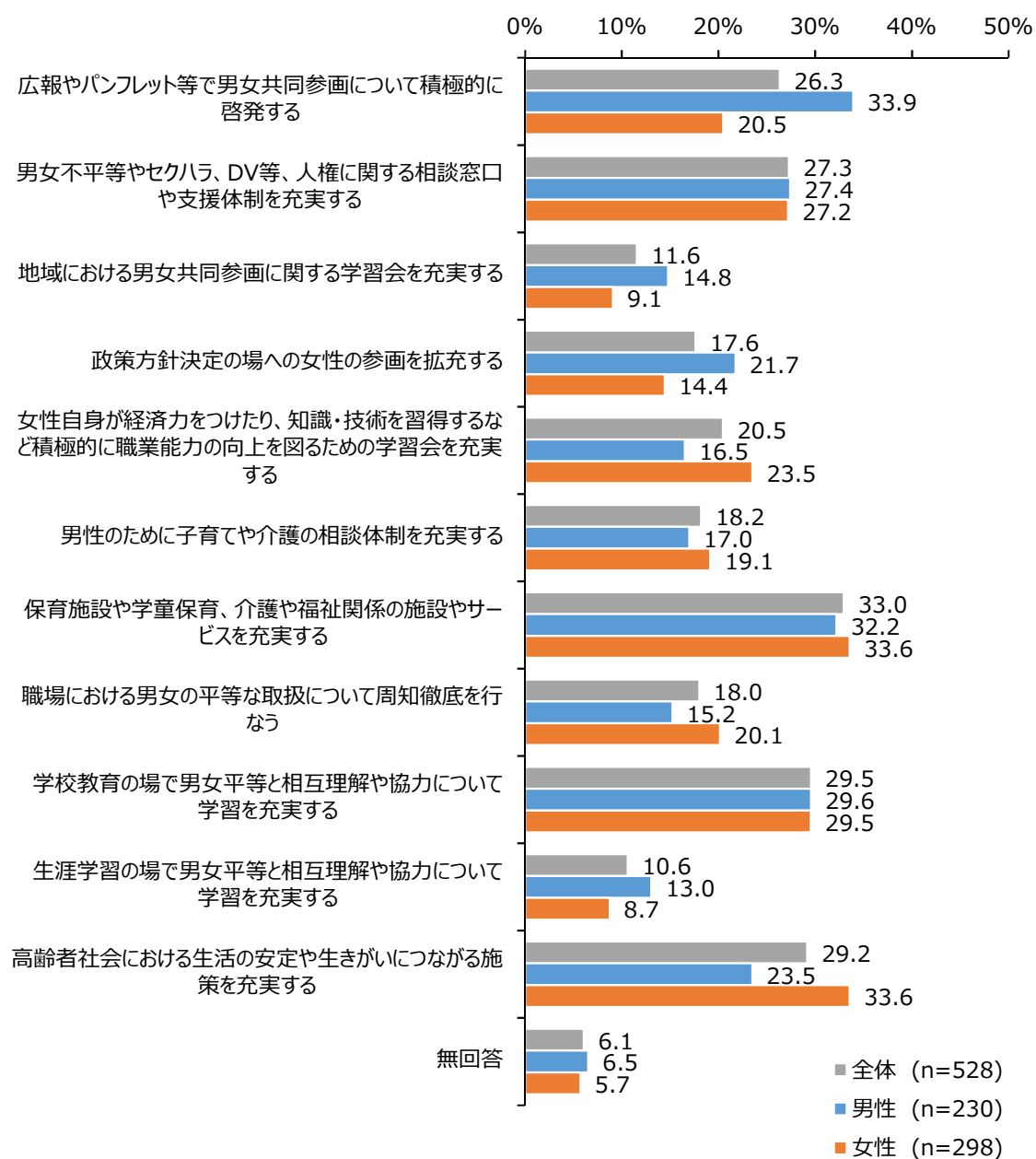
男女共同参画に関する取り組みについて

問 23：男女共同参画社会の実現のために重点的に取り組めばよいと思うこと（MA）

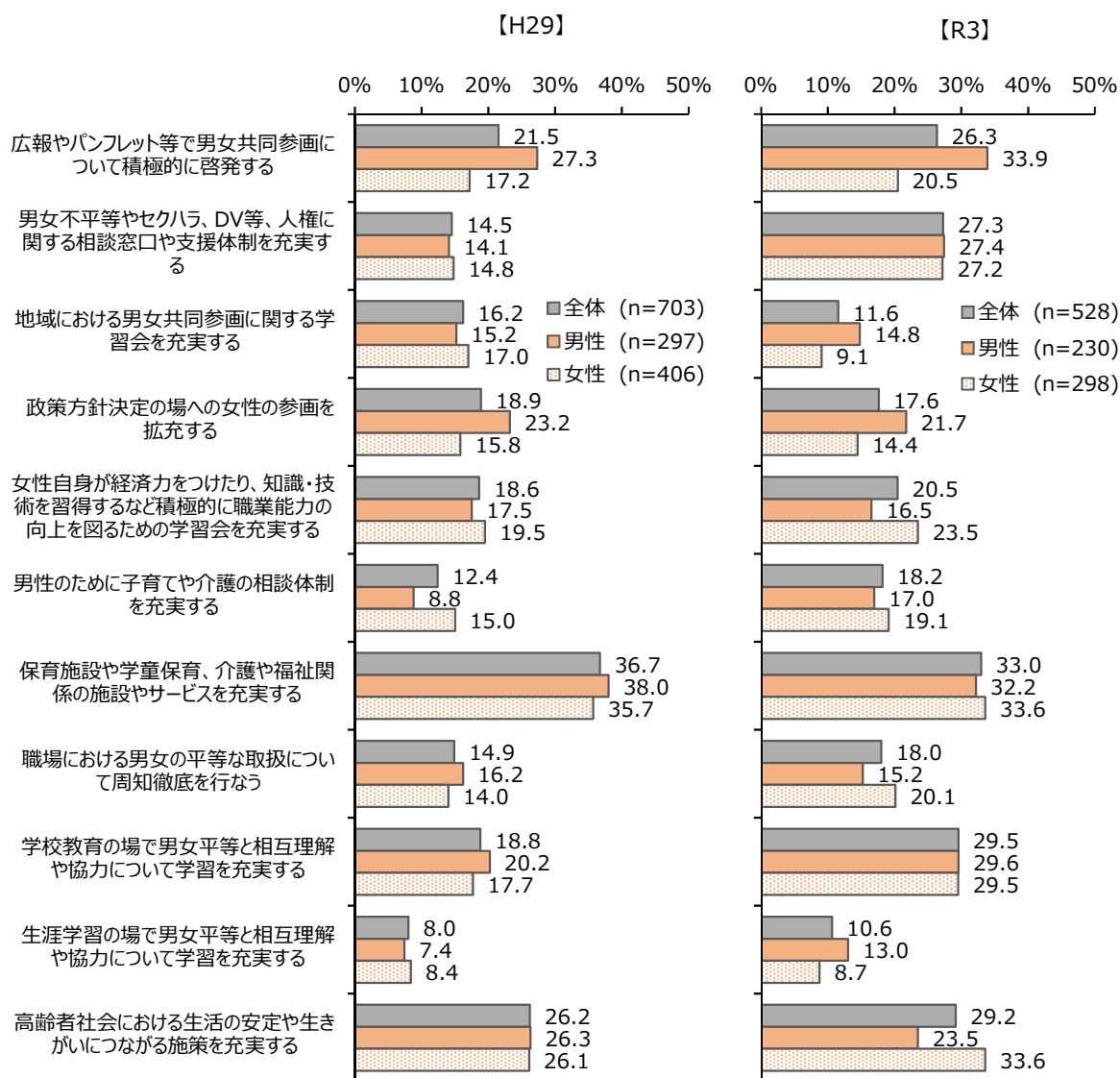
男女共同参画社会の実現のために重点的に取り組めばよいと思うことについては、「保育施設や学童保育、介護や福祉関係の施設やサービスを充実する」と回答した割合が 33.0%と最も多く、次いで、「学校教育の場で男女平等と相互理解や協力について学習を充実する」が 29.5%、「高齢者社会における生活の安定や生きがいにつながる施策を充実する」が 29.2%と続いている。



(参考) 問 23 : 男女共同参画社会の実現のために重点的に取り組めばよいと思うこと (MA) × 問 1 : 性別 (SA)



(参考) 問 23 : 男女共同参画社会の実現のために重点的に取り組めばよいと思うこと (MA) ■ 前回比較



3.調査票

令和 3 年度調査 調査票

男女共同参画に関する意識調査

調査ご協力をお願い

日頃から、市政に対しご理解ご協力をいただきありがとうございます。

本市では、平成19年3月に男女共同参画推進計画である「甲州フルーティー夢プラン」を策定し、平成28年3月には、甲州市男女共同参画推進条例を制定、また、平成29年度より「第2次甲州フルーティー夢プラン」に沿って様々な推進活動をしております。また、令和元年6月には「甲州市男女共同参画都市宣言」を市内外に向け行ったところです。

この第2次プランも、令和3年度が5か年計画の最終年度となるため、これまでの推進の成果と、本市における男女共同参画の現状について、皆様のお考えをお寄せいただき本年度策定を予定している「第3次甲州フルーティー夢プラン」の基礎資料とするため、意識調査を実施させていただくことといたしました。

ご回答いただく方は、甲州市にお住まいの20歳以上の方の中から1,300人を無作為に選ばせていただきました。お答えいただいた内容は、すべて統計的な数値として処理し、本調査の目的だけに利用させていただきますので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ大変恐縮ではありますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和3年4月

甲州市長 鈴木 幹夫
甲州市男女共同参画推進委員会
委員長 野口 雅美

ご記入にあたってのお願い

- ◆ 調査票にも、返信用封筒にも、ご住所・お名前を記入していただく必要はありません。
- ◆ お答えは、必ずあなた（あて名の方）ご自身の判断で記入してください。
- ◆ ご記入の際には、黒の鉛筆かボールペンをご使用ください。
- ◆ お答えは、主として番号に○をつけるものです。また、所定の欄に具体的な内容をご記入いただくものもあります。設問の指示にしたがって、ご回答ください。
- ◆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、**6月18日（金）**までにポストに投函してください。

この調査についてのお問合せ先

甲州市役所 市民生活課 市民参画・協働担当
〒404-8501 甲州市塩山上於曽1085番地1
電 話 0553-32-5583
FAX 0553-32-3072
E-mail shimin@city.koshu.lg.jp

よろしくお願いします

